令和7年度

「専門職業人材の最新技能アップデートのための専修学校リカレント教育(リ･スキリング)推進事業」

生成AIの利活用の知識と技術
教育演習課題

本生成 AI の利活用の知識と技術教育演習課題は、文部科学省の教育政策推進事業委託費による委託事業として、学校法人第一平田学園　中国デザイン専門学校が実施した令和7年度「専門職業人材の最新技能アップデートのための専修学校リカレント教育（リ・スキリング）推進事業」の成果物です。

アパレル産業における社会変化に対応した技能アップデートプログラムの開発と実証事業

目 次

演習課題

1. 生成 AI とは何か：基礎知識と定義 …… 1
2. 代表的な生成 AI：ChatGPT・画像生成 AI とは …… 6
3. ChatGPT の基本操作と機能理解 …… 12
4. 良いプロンプトの条件と書き方 …… 17
5. 商品紹介文の生成手法 …… 22
6. SNS 投稿文・キャッチコピー生成 …… 27
7. ブログ・読み物コンテンツの AI 生成 …… 32
8. メールやチャット対応文の AI 作成例 …… 37
9. AI による顧客アンケート分析 …… 42
10. 市場調査・競合調査での活用法 …… 47
11. SWOT やペルソナ設計での活用アイデア …… 52
12. Excel・データ処理系の支援活用 …… 57
13. 画像生成 AI の概要（Midjourney 等） …… 62
14. ファッション画像の生成の仕組み …… 67
15. コーディネート画像作成の具体例 …… 72
16. バナーや POP の生成と工夫 …… 77
17. Web サイト用素材生成のポイント …… 82
18. 動画生成 AI の活用範囲 …… 87
19. スタイリング提案の自動化と AI …… 92
20. ファッション業界の事例紹介（国内） …… 97
21. ファッション業界の事例紹介（海外） …… 102
22. 生成 AI 導入による業務効率改善例 …… 107
23. 社内共有や教育での導入ステップ …… 112
24. AI の限界と誤用リスク …… 117
25. 法的リスクと著作権・倫理的課題 …… 122
26. ChatGPT のリスクと安全な使い方 …… 127
27. 画像生成 AI における注意点 …… 132
28. 今後の技術トレンドとファッション活用 …… 137
29. 成功のための導入ステップ整理 …… 142
30. 生成 AI が変えるファッション広告表現 …… 147

令和7年度文部科学省委託
「専門職業人材の最新技能アップデートのための専修学校リカレント教育推進」事業

アパレル業界における生成AIの利活用の知識と技術

演習課題

01生成AIとは何か：基礎知識と定義



演習課題 01

（20点）

AIの進化の歴史を簡潔にまとめ、1950年代・1980年代・2010年代・2020年代における主要な変化をそれぞれ1行ずつ説明してください。

演習課題 01 （20点）

■ **回答例**

- 1950年代：チューリングの提案とダートマス会議を契機に、記号処理を中心とした「AI」研究が出発した。
- 1980年代：エキスパートシステムの実用化とバックプロパゲーションの再評価で、知識と学習の両面が伸長した。
- 2010年代：深層学習がImageNet等でブレイクし、音声・画像・自然言語で人間水準に迫る性能が示された。
- 2020年代：大規模基盤モデルと拡散モデルが普及し、生成AIがマルチモーダルに広がって産業実装が加速した。

■ **解説**

本問はAIの発展を四つの節目で俯瞰する力を問います。1950年代はチューリングによる知能の操作的定義とAI研究の出発点で、記号的アプローチが主流でした。1980年代はエキスパートシステムが業務へ入り、同時に誤差逆伝播の普及で統計的学習が再加速します。2010年代には深層学習が画像認識などで飛躍し、表現学習が主役へ転じました。2020年代は大規模言語モデルや拡散モデルが登場し、生成と理解が統合された基盤モデル時代に入り、実務への導入が本格化しました。

演習課題 02 （20点）

従来型AIと生成AIの違いを、目的と出力内容の観点から説明してください。

演習課題 02 （20点）

■ **回答例**　従来型AIは既存データをもとに「分類・予測・最適化」を行うことを目的とし、結果として数値やラベルなどの分析的出力を生成する。
一方、生成AIは学習データをもとに「新しい情報やコンテンツを創出」することを目的とし、文章・画像・音声などの創造的出力を生成する。

■ **解説**　従来型AIは、統計的解析や機械学習を用いて「既知のデータをもとに答えを導く」ことを得意とします。たとえば「どの顧客が商品を購入しそうか」「どの画像が猫か犬か」を判断するような問題です。
一方、生成AIは「未知のものをつくる」ことに主眼があります。テキストや画像のように、まったく新しい出力を自ら構成する能力を持ちます。目的が「予測」から「創造」へと変化した点が最も大きな違いです。
アパレル分野では、従来型AIが在庫予測や需要分析に活用される一方で、生成AIは商品画像や販促コピーの自動生成に応用されるなど、役割が明確に分かれています。

演習課題 03 （20点）

生成AIの仕組みを「入力（プロンプト）」「学習」「出力」の流れで簡単に説明してください。

演習課題 03 （20点）

■ **回答例**

- 生成AIはまず入力段階でユーザーがテキストなどのプロンプトを与える。
- 学習段階では過去に大量のデータを解析して、言葉や画像の関係を数値的に理解している。
- 出力段階では、その理解に基づいて新しい文章や画像を生成する。

■ **解説**

生成AIの基本的な流れは「入力（プロンプト）」「学習」「出力」の3ステップです。まず、ユーザーが「どんなものを作りたいか」をテキストとして入力します。次に、AIは過去の学習データを参照し、テキストの意味や構造を内部表現に変換します。これが「学習に基づく推論」です。最後に、その内部表現をもとに新しい画像や文章を生成します。このプロセス全体が「テキストから創造的成果物を生み出す」という生成AIの仕組みです。

演習課題 04 （40点）

生成AIがアパレル業界で注目されている理由を2つ挙げ、それぞれ具体例を交えて説明してください。

演習課題 04 （40点）

■ **回答例**

- デザイン・発想支援：生成AIはテキスト入力から多様なデザイン案を即座に提示できるため、企画初期のアイデア出しやトレンド検討を効率化できる。
- 販促ビジュアルの自動生成：シーズンごとの広告用画像やバナーを短時間で作成でき、制作コストとリードタイムを大幅に削減できる。

■ **解説**

生成AIがアパレル業界で注目される理由の一つは、デザイン開発のスピード化と発想拡張です。従来はデザイナーがスケッチを描いて比較検討していた工程を、生成AIが数分で数十案を提示できるようになりました。もう一つは販促物の制作効率です。モデル撮影や背景合成を自動化できるため、低コストで多様なビジュアルを展開できます。これにより、広告・EC・SNSなど各チャネルへの素材供給が迅速化し、クリエイティブの生産性が劇的に向上しています。

令和7年度文部科学省委託
「専門職業人材の最新技能アップデートのための専修学校リカレント教育推進」事業

アパレル業界における生成AIの利活用の知識と技術

演習課題

02代表的な生成AI:ChatGPT・画像生成AIとは



演習課題 01

（20点）

ChatGPTの基本的な仕組みを、入力から出力までの流れに沿って説明してください。

演習課題 01 （20点）

■ **回答例**　ユーザーのテキストはトークン化され、ベクトルに変換されます。トランスフォーマーは直前までの文脈を踏まえ、次の単語の確率分布を計算します。分布から一語ずつ選んで連鎖的に生成し、停止条件に達するとテキストとして出力します。

■ **解説**　ChatGPTは大規模言語モデルで、入力テキストをトークンへ分割し埋め込みに変換します。自己注意により過去文脈を参照しつつ、次トークンの確率分布を推定します。生成は貪欲法や温度付きサンプリング、トップPなどで一語ずつ決定していき、逐次的に文が伸びます。会話ではシステム／ユーザー／アシスタントの履歴を一続きの入力として処理するため、前の発話が後続の応答に影響します。最終的にトークン列を文字列へ戻し、出力します。

演習課題 02 （20点）

トランスフォーマー構造における「自己注意機構（Self-Attention）」の役割を説明してください。

演習課題 02 （20点）

■ **回答例**　自己注意は、入力列内で各トークンが他のトークンを参照する重みを学習し、重要な文脈に高い注意を割り当てます。これにより長距離依存を捉え、語義の曖昧さを解消しつつ、並列計算で効率的に表現を更新します。

■ **解説**　Self-Attentionは、各トークンからクエリ・キー・バリューを作り、内積と正規化で「どこを見るか」の分布を求めます。重みづけ和により、単語は必要な相手の情報を取り込み、新しい表現へ更新されます。RNNのように順次処理せず全位置を同時に計算でき、長距離依存（文頭の主語と文末の述語など）を安定して扱えます。多頭注意により異なる視点（語順、係り受け、意味役割など）を同時に学習し、文脈理解と生成精度を高めます。

演習課題 03 （20点）

画像生成AIが「拡散モデル（Diffusion Model）」を用いる理由を簡潔に説明してください。

演習課題 03 （20点）

■ **回答例**　拡散モデルは、ノイズから段階的に画像を復元する方式で学習が安定し、モード崩壊が起きにくい一方、高画質で多様な生成が可能です。逐次的なノイズ除去により構図や質感を精緻に制御しやすい点も利点です。

■ **解説**　Diffusionは「前向き過程」で画像にノイズを加え、「逆過程」でノイズを除去する確率的生成です。判別器と競うGANに比べ発散しにくく、広い分布をカバーしやすいため多様性が保たれます。段階的復元により粗→細の順で構造・光・テクスチャを詰められ、高解像・高忠実度の出力が得やすい設計です。テキスト条件や画像条件を加えてガイダンスでき、アパレルの素材感やライティングの制御にも適します。

演習課題 04 （20点）

ChatGPTと画像生成AIの共通点と相違点をそれぞれ1つずつ説明してください。

演習課題 04 （20点）

■ **回答例**

- 共通点：いずれも学習データに基づいて新しいコンテンツを確率的に生成する生成モデルであり、条件（プロンプト）に応じて出力を変える。
- 相違点：ChatGPTはテキストを逐次生成する言語モデル、画像生成AIは拡散などで画素表現を復元する視覚モデルで、対象・生成手順・評価方法が異なる。

■ **解説**

両者は「条件付き生成」を行う点で同じです。入力（プロンプト）から内部表現を作り、確率的に新規出力を合成します。一方で、ChatGPTは自己回帰的にトークンを一つずつ出し、整合性・事実性・文体などが評価軸です。画像生成AIは連続的な画素空間を扱い、構図・形状・質感・光など視覚的忠実度が軸で、拡散モデルや画像条件付けが多用されます。用途も、前者は会話・文書作成、後者はビジュアル制作と役割が分かれます。

演習課題 05 （20点）

アパレル業界における画像生成AIの具体的な活用例を2つ挙げ、それぞれの効果を説明してください。

演習課題 05 （20点）

■ **回答例**

- 企画・デザイン：テキストからスタイリング案や配色バリエーションを生成し、初期検討を短時間で多案化できる（発想拡張と試行回数の増加）。
- 販促・EC：季節キャンペーンや商品バナーを自動生成し、制作コストとリードタイムを削減、チャネル別に多パターン展開が容易になる。

■ **解説**

企画段階では、生成AIにテーマや素材感を指示するだけで複数の方向性を素早く可視化でき、会議の合意形成や検討の幅が広がります。販促・ECでは、背景合成やトーン統一を自動化し、更新頻度の高いビジュアルを低コストで量産できます。さらに、A/Bテスト用の素材を迅速に用意でき、クリック率・購買率の最適化にも寄与します。現場では「人が最終表現を整える」前提で活用することで、品質とスピードの両立が可能です。

令和7年度文部科学省委託
「専門職業人材の最新技能アップデートのための専修学校リカレント教育推進」事業

アパレル業界における生成AIの利活用の知識と技術

演習課題

03ChatGPTの基本操作と機能理解



演習課題 01

（25点）

ChatGPTの主な特徴を2つ挙げ、それぞれの特徴がどのような場面で役立つかを説明してください

演習課題 01 （25点）

■回答例

1. 文脈を理解して自然な会話ができる点

長い会話の流れを把握し、質問意図をくみ取った回答が可能。

たとえば顧客対応チャットやFAQシステムで活用できる。

2. 多様な文体や用途に応じた文章を生成できる点

メール文、記事、企画書など、目的に応じてトーンを変えた文章を自動生成できる。

文章作成の効率化や品質の均一化に役立つ。

■解説

ChatGPTは、自然言語処理技術を基盤とし、人間のような自然な応答を行うことができます。特に、文脈を理解する能力によって、単発的な回答ではなく会話の流れを踏まえたやり取りが可能になります。また、トーンや文体を柔軟に変えられるため、ビジネスメールからカジュアルな投稿文まで幅広く対応できます。これらの特徴により、顧客対応・マーケティング・資料作成などの場面で実務的な効果を発揮します。

演習課題 02 （25点）

良いプロンプトの4要素をすべて挙げ、それぞれの役割を簡潔に説明してください。

演習課題 02 （25点）

■ **回答例**

目的：何を達成したいかを明確にする。
条件：文字数・文体・トーンなど出力の制約を示す。
対象：誰に向けた内容かを指定する。
出力形式：箇条書き・文章・表など、形式を定義する。

■ **解説**

プロンプトの質は、出力の精度を大きく左右します。目的を明確に示すことで、AIがどの方向に出力すべきかを理解しやすくなります。条件を付けることで、不要な情報を除外し、期待に沿った結果を得ることができます。文体指定は読み手に合わせた出力を得るうえで重要であり、出力形式を指定することで、整理された結果（例：箇条書き・表形式）を得られます。これら4つの要素を組み合わせることで、業務でも再現性の高い成果を出すことができます。

演習課題 03 （25点）

ChatGPTのトーンや文体を調整する目的として正しいものを、以下から2つ選び、理由を説明してください。

1. ブランドや顧客層に合わせるため
2. 出力速度を上げるため
3. 読者の印象をコントロールするため
4. AIの学習データを更新するため

演習課題 03 （25点）

■ **回答例**　①・③

理由：トーンや文体を調整することで、ブランドらしさや読者が受け取る印象をコントロールできる。同じ内容でも、トーン次第で伝わり方が変化する。

■ **解説**　ChatGPTのトーンや文体を調整するのは、主に「伝わり方」を最適化するためです。ブランドイメージに合わせた文章を生成すれば、企業としての統一感が保たれます。また、読者の印象を意図的に操作することで、信頼感・親近感・専門性などの印象をコントロールできます。たとえば、若年層向けSNS投稿では親しみやすいカジュアルトーン、ビジネス資料ではフォーマルな文体を用いることで、受け手の反応を調整できます。

演習課題 04 （25点）

ChatGPTを業務で安全に使うための注意点を2つ挙げ、それぞれの理由を説明してください。

演習課題 04 （25点）

■ **回答例**

- 機密情報を入力しないこと
  外部サーバーで処理されるため、社外秘データの流出につながるおそれがある。
- 出力内容をそのまま信用せず、必ず確認すること
  ChatGPTは事実誤認や虚偽情報を含む場合があり、誤った情報の使用は業務上のリスクになる。

■ **解説**

ChatGPTは便利なツールである一方、情報管理の観点から注意が必要です。入力データが外部に保存される場合があり、個人情報や機密データを入力するのは避けるべきです。また、出力内容は必ず確認・検証を行い、信頼できる情報源と照合することが重要です。特にビジネス資料や顧客対応などでは、誤情報による信用失墜を防ぐためのチェック体制が欠かせません。

令和7年度文部科学省委託
「専門職業人材の最新技能アップデートのための専修学校リカレント教育推進」事業

アパレル業界における生成AIの利活用の知識と技術

演習課題

04良いプロンプトの条件と書き方



演習課題 01

（20点）

良いプロンプトを設計する目的を、自分の言葉で説明してください。

演習課題 01 （20点）

■ **回答例**　良いプロンプトを設計する目的は、AIに意図を正確に伝え、期待する結果を安定して得るためです。あいまいな指示では誤った出力や不十分な内容になるため、目的や条件を明確に伝えることが重要です。

■ **解説**　プロンプト設計は、AIとの「コミュニケーション設計」といえます。AIは人間のような暗黙の理解を持たないため、出力の品質は指示の明確さに左右されます。良いプロンプトは、目的（何をしたいか）と条件（どうしてほしいか）を具体的に示し、無駄な試行錯誤を減らします。業務利用においては、同じタスクでも再現性の高い結果が得られる点が特に重要です。

演習課題 02 （20点）

ステッププロンプト（Step Prompting）について使い方と行う目的を説明してください。

演習課題 02 （20点）

■ **回答例**　ステッププロンプトは、複雑な課題を複数の段階に分けて指示する方法です。目的は、AIに一度に多くの情報を処理させず、思考の過程を整理させることで、より正確で論理的な出力を得ることにあります。

■ **解説**　ステッププロンプトは、「一度にすべて答えさせない」ことがポイントです。AIは長く複雑な指示を処理する際、重要な情報を見落とすことがあります。段階的に質問し、各ステップで内容を確認することで、思考の精度を高めることができます。たとえば、まず概要をまとめさせ、その後に詳細を加えさせるなどの使い方が効果的です。これにより、最終的な成果物の質を大きく向上できます。

演習課題 03 （20点）

次の文章を読んで、改善プロンプトを作成してください。

出力結果：「このワンピースは春にぴったりです。」

問題点：文章が短く、魅力が伝わりにくい。

演習課題 03 （20点）

■ **回答例**　「春にぴったりなワンピースの魅力を、素材やデザイン、着こなしイメージを交えて、200文字程度で紹介してください。」

■ **解説**　この改善プロンプトでは、「どの点を詳しく」「どのくらいの長さで」書くかを明確にしています。元の文章は短く、情報が不足していたため、AIに対して「素材」「デザイン」「着こなし」という具体的要素を指示しました。また文字数指定をすることで、出力のボリュームを適切にコントロールできます。これにより、より魅力的で読者に伝わる文章を生成できます。

演習課題 04 （40点）

次の指示文を、「目的・条件・対象・形式」を明確にした良いプロンプトに改善してください。

「服の紹介文を作って」

演習課題 04 （40点）

■ **回答例**　「20代女性向けの春物ワンピースを紹介する文章を作成してください。
素材やシルエット、着こなしのポイントを盛り込み、200文字程度でナチュラルなトーンで書いてください。」

■ **解説**　改善後のプロンプトは、「目的（服を紹介する）」「条件（素材や着こなしの情報を含める）」「対象（20代女性）」「形式（200文字・ナチュラルトーン）」の4要素が明確です。これにより、AIはより適切な文体と内容で出力できるようになります。曖昧な「服の紹介文を作って」だけでは、対象もトーンもわからず、意図に合わない出力になる可能性があります。

令和7年度文部科学省委託
「専門職業人材の最新技能アップデートのための専修学校リカレント教育推進」事業

アパレル業界における生成AIの利活用の知識と技術

演習課題

05商品紹介文の生成手法



演習課題 01

（20点）

商品紹介文に求められる4つの要素をすべて挙げ、それぞれの役割を簡潔に説明してください。

演習課題 01 （20点）

■ **回答例**　商品情報：名称や特徴を明確に伝える。読者に基本的な理解を与える。
ベネフィット：使うことで得られる価値や魅力を示す。購買意欲を高める。
使用シーン：どんな場面で活用できるかを具体的に想像させる。
トーン・雰囲気：ブランドイメージや読者層に合わせた印象を形成する。

■ **解説**　良い商品紹介文は、単にスペックを並べるのではなく「読者が使う場面を想像できる」構成になっています。商品情報で基本を伝え、ベネフィットで価値を訴求し、使用シーンで具体的なイメージを補います。さらに、ブランドトーンを保つことで文章全体の統一感が生まれ、読者に「このブランドらしさ」を印象づけることができます。

演習課題 02 （20点）

次のプロンプトを、目的・対象・トーン・出力形式を明確にした“良いプロンプト”に書き直してください。

「服の紹介文を作ってください。」

演習課題 02 （20点）

■ **回答例**　「20代女性向けの春物ブラウスを紹介する文章を作成してください。素材やシルエット、着こなしのポイントを含め、200文字程度でナチュラルでやわらかいトーンで書いてください。」

■ **解説**　改善後のプロンプトでは、目的（服の紹介）、対象（20代女性）、トーン（ナチュラル・やわらかい）、出力形式（200文字程度）を明示しています。これにより、AIが出力内容・文体・分量をより的確に理解でき、ブランドイメージに沿った文章を生成できます。曖昧なプロンプトでは意図が伝わらず、結果の品質にばらつきが出やすいため、具体性が重要です。

演習課題 03 （20点）

生成された商品紹介文を改善する際のポイントを2つ挙げ、それぞれの理由を説明してください。

演習課題 03 （20点）

■ **回答例**　具体性を高める：素材や使い方など、読者が想像できる情報を加えることで魅力が伝わりやすくなる。
トーンの一貫性を確認する：ブランドやターゲット層に合わない文体を修正し、印象を統一する。

■ **解説**　AIが生成した文章は、一般的で表現が浅いことが多いため、具体的な情報を追加してリアリティを高めることが大切です。また、トーンの一貫性はブランドイメージに直結するため、ナチュラル・上品・カジュアルなどのトーンを意識的に調整します。これらの改善により、AI出力の品質を向上させ、商品やブランドの魅力をより正確に伝えられるようになります。

演習課題 04 （40点）

次の商品を題材に、ChatGPTで魅力的な商品紹介文を生成するためのプロンプトを作成してください。

商品情報：

- 白いブラウス
- コットン素材・七分袖・ゆったりシルエット
- 春の新作・20代女性向け
- ブランドトーン：ナチュラルでやわらかい印象

演習課題 04 （40点）

■ **回答例**　「20代女性向けの春の新作、白いコットンブラウスの紹介文を作成してください。七分袖でゆったりとしたシルエットの特徴を踏まえ、ナチュラルでやわらかい印象のトーンで、200文字程度の文章にしてください。」

■ **解説**　このプロンプトでは、「目的（商品紹介）」「対象（20代女性）」「条件（素材・デザイン・トーン）」「出力形式（200文字程度）」を明示しています。これにより、ChatGPTは商品の特徴を踏まえた上で、ブランドイメージに合った表現を生成できます。特に「ナチュラルでやわらかい印象」というトーン指示があることで、読者の感情に訴える文体を安定的に出力できます。

令和7年度文部科学省委託
「専門職業人材の最新技能アップデートのための専修学校リカレント教育推進」事業

アパレル業界における生成AIの利活用の知識と技術

演習課題

06SNS投稿文・キャッチコピー生成



演習課題 01

（20点）

SNS投稿文とキャッチコピーの目的の違いを説明してください。

演習課題 01 （20点）

■ **回答例**　キャッチコピーは、短い言葉で印象を残し、興味を引くことが目的。SNS投稿文は、商品やブランドの魅力を伝え、行動（クリック・購入・フォロー）につなげることが目的。

■ **解説**　キャッチコピーは「最初の一言」で感情を動かし、関心を持たせるために使われます。広告や投稿の冒頭で視覚的・感覚的に印象を与えるのが役割です。一方、SNS投稿文は、その興味をさらに深め、情報を伝え、行動を促す「ストーリー部分」を担います。つまり、コピーは“入口”、投稿文は“案内役”という関係です。両者を明確に使い分けることで、効果的な訴求が可能になります。

演習課題 02 （20点）

ChatGPTでSNS投稿文を作成する際、プロンプトに含めるべき情報を4つ挙げ、それぞれの理由を説明してください。

演習課題 02 （20点）

■ **回答例**　目的：何を伝えたいのか（例：新商品の告知・ブランド認知など）を明確にする。
ターゲット：誰に向けた投稿かを指定し、トーンや表現を最適化する。
トーン・文体：ブランドらしさを保ち、投稿全体の印象を統一する。
出力形式：本文・ハッシュタグなど、どの構成で出力するかを指定する。

■ **解説**　AIは意図を明示的に伝えなければ、一般的で曖昧な投稿文を生成してしまいます。目的を設定することで、出力の方向性（販売促進・共感・告知など）が定まり、ターゲット指定によって読者に合わせた言葉選びが可能になります。また、トーンや文体を明確にすることで、ブランドの一貫性を維持できます。出力形式の指定（例：「本文＋ハッシュタグ」）を加えると、エーアイが構造化された投稿文を生成し、すぐに実務に使える内容になります。

演習課題 03 （20点）

次のキャッチコピーを分析し、「情報・感情・行動」の3要素のうち、どの要素が含まれているかを示してください。

「軽く羽織って、春をまとおう。」

演習課題 03 （20点）

■ **回答例**　含まれている要素：感情・行動
「軽く羽織って」→ 行動の提案（着てみようという誘導）
「春をまとおう」→ 感情の喚起（季節感・心地よさ・期待感）

■ **解説**　このコピーには、具体的な商品名や特徴といった「情報」は含まれていません。その代わりに、読者の感情を刺激し、行動を促す構成になっています。「羽織って」という動詞が行動のきっかけをつくり、「春をまとおう」という比喩が心地よい情景を想起させ、購買意欲を高めます。情報を省くことで想像の余地を残し、短い言葉で印象を最大化するのがキャッチコピーの特徴です。

演習課題 04 （40点）

次の条件に沿って、ChatGPTにSNS（Instagram）投稿文を生成させるためのプロンプトを作成してください。

商品情報：

春の新作「白いブラウス」

コットン素材・七分袖・ゆったりシルエット

ブランドトーン：ナチュラルで柔らかい

写真：自然光の中で女性が歩くシーン

演習課題 04　（40点）

■ **回答例**　「Instagram投稿文を作成してください。
春の新作『白いコットンブラウス』を紹介する内容で、20代女性向けに書いてください。
七分袖でゆったりとしたシルエットの特徴を盛り込み、ナチュラルで柔らかいトーンで表現してください。
写真は自然光の中で女性が歩くシーンなので、軽やかで季節感のある文章にしてください。
本文のあとに3～5個の関連ハッシュタグを付けてください。」

■ **解説**　このプロンプトは、SNS投稿作成に必要な4要素（目的・対象・トーン・形式）をすべて明示しています。目的は「商品の魅力を伝える」、対象は「20代女性」、トーンは「ナチュラルで柔らかい」、形式は「本文＋ハッシュタグ」。さらに、写真の情景を指定することで、AIが文体の方向性（軽やか・春らしい）を理解しやすくなります。AIにイメージを共有させるほど、出力は人間らしい自然な文章に近づきます。こうした工夫により、ブランドトーンを保ちながら、視覚と文章が調和した投稿が作成できます。

令和7年度文部科学省委託
「専門職業人材の最新技能アップデートのための専修学校リカレント教育推進」事業

アパレル業界における生成AIの利活用の知識と技術

演習課題

07ブログ・読み物コンテンツのAI生成



演習課題 01

（20点）

ブログ・読み物コンテンツがアパレルブランドにもたらす3つの効果を挙げ、それぞれの理由を簡潔に説明してください。

演習課題 01 （20点）

■ **回答例**　ブランド理解の促進：ストーリーを通してブランドの価値観を伝え、共感を得られる。
検索流入の拡大：SEOにより自然検索からの新規ユーザー流入を増やす。
購買前の信頼形成：商品の背景や着こなし提案を通じて、購入前の不安を解消する。

■ **解説**　アパレルブランドにとって、ブログやコラムは単なる情報発信ではなく「世界観の延長線上」にあります。ブランド理解を深める記事は、単なるモノの紹介ではなく、“ブランドと顧客の価値共有”を生み出します。さらにSEOを意識することで、購買意欲を持つ潜在層を検索経由で取り込むことができます。また、着用シーンや素材の背景を丁寧に説明する記事は、読者に安心感と信頼感を与え、購入につながる心理的障壁を下げます。これら3点は、アパレルECにおける中長期的なブランド育成の基盤です。

演習課題 02 （20点）

SEOを意識したプロンプトを作成する際に盛り込むべき要素を4つ挙げ、それぞれの役割を説明してください。

演習課題 02 （20点）

■ **回答例**　キーワード：検索上位を狙う語句を明示し、AIに焦点を合わせさせる。
見出し構成：H2・H3などの構成を指定し、読みやすく整理された文章を生成させる。
読者層：誰に向けた記事かを設定し、語り口やトーンを最適化する。
目的・意図：記事の狙い（集客・啓発・信頼構築など）を明示して、内容の方向性を統一する。

■ **解説**　SEOを考慮したプロンプトは、単に「ブログを書いて」と指示するだけでは不十分です。AIは文法的に正しい文章を生成しますが、検索上位を取るには「検索意図に合致した構成」と「適切なキーワード配置」が不可欠です。キーワードを明示すると、AIは自然な形で関連語を織り交ぜた文章を作成できます。さらに、見出し構成を指定することで、読みやすく、Googleのクローラーにも評価されやすい構造になります。目的と読者層を定義することで、ブランドイメージを損なわず、訴求力とSEO効果を両立したコンテンツが生まれます。

演習課題 03 （30点）

以下のテーマで、ChatGPTを使ってブログを構成させるためのプロンプトを作成してください。

- **テーマ：「リネン素材で楽しむ春の着こなし」**
- **ブランドトーン：ナチュラルで上品**
- **読者：20代後半～30代女性**

演習課題 03 （30点）

■ **回答例**　「『リネン素材で楽しむ春の着こなし』というテーマで、ブログ構成案を作成してください。
読者は20代後半～30代の女性で、ナチュラルかつ上品なブランドトーンを意識してください。
H2・H3見出し形式で、導入・本文・まとめを含む構成を提案してください。」

■ **解説**　このプロンプトは、AIに「記事の骨格」を考えさせる設計指示です。テーマと読者層、トーンを指定することで、ブランドの世界観に合った章立てが生成されます。構成段階で明確なトーンを示しておくことで、後の本文生成の質も安定します。AIに任せる際は、具体的に「どんな構造で出力してほしいか」（見出しレベルや項目数）を明示することで、編集者が使いやすい下書きが得られます。

演習課題 04 （30点）

次の条件に基づき、ChatGPTにブログ本文を生成させるためのプロンプトを作成してください。

- **テーマ：「オーガニックコットンが生まれるまで」**
- **ブランドトーン：誠実で温かい**
- **目的：ブランドの環境配慮の姿勢を伝える**

演習課題 04 （30点）

■ **回答例**　「『オーガニックコットンが生まれるまで』というテーマで、誠実で温かいトーンのブログ本文を作成してください。
コットンの生産から製品化までの過程をやさしい言葉で説明し、ブランドの環境配慮への姿勢が伝わるように書いてください。
専門的な説明とともに、読者の共感を呼ぶエピソードや感情表現を加えてください。」

■ **解説**　このプロンプトでは、単に「説明」を求めるのではなく、「感情のトーン」と「ブランドの価値観」をAIに伝えています。アパレルブランドにとって、環境配慮は単なる事実ではなく“姿勢”です。そのため、誠実さと温かさを両立する表現が必要になります。AIに「共感を呼ぶエピソードを加える」と指示することで、ストーリー性のある自然な文章を生み出せます。こうした人間的な語り口が、読み物コンテンツの質を高めます。

令和7年度文部科学省委託
「専門職業人材の最新技能アップデートのための専修学校リカレント教育推進」事業

アパレル業界における生成AIの利活用の知識と技術

演習課題

08メールやチャット対応文のAI作成例



演習課題 01

（20点）

メールやチャット対応が、アパレルブランドにとって重要な理由を3つ挙げ、それぞれの理由を簡潔に説明してください。

演習課題 01 （20点）

■ **回答例**

1. ブランドイメージの維持
   文体やトーンがブランドの世界観を伝える役割を果たすため。
2. 顧客満足度の向上
   誠実で丁寧な対応が、安心感と信頼感を与えるため。
3. クレームリスクの軽減
   顧客の不安や誤解を早期に解消し、トラブルを防ぐため。

■ **解説**

アパレルブランドにとってのメール・チャット対応は、「見えない接客」です。言葉づかい・返信スピード・対応の一貫性が、顧客の中でのブランド印象を形成します。とくにEC中心の企業では、テキストコミュニケーションが顧客との唯一の接点であり、ブランド人格の象徴となります。
例えば「申し訳ございません」だけでなく、「ご不安なお気持ちをお察しします」と添えるだけで、印象は大きく変わります。また、問い合わせへの初動スピードも信頼形成に直結します。
AIの活用によって迅速な初期対応が可能となり、顧客満足度を高めながら人の負担も減らせます。

演習課題 02 （20点）

生成AIを活用して対応文を作成する際の基本プロセスを、5つのステップで説明してください。

演習課題 02 （20点）

■ **回答例**

1. 目的を明確にする（謝罪・案内・説明など）
2. 顧客状況と感情を整理する
3. ブランドトーンを設定する
4. プロンプトを作成しAIに入力する
5. 生成結果を確認・修正する

■ **解説**

AIを効果的に活用するには、「指示の質」が最も重要です。
目的が曖昧なまま入力すると、AIは一般的な文しか出せません。
顧客の心理状況やブランドらしさを加えることで、精度が格段に向上します。
また、AIの出力はあくまで“下書き”です。
人が最後に確認して、情報の正確性や温度感を調整することで、ブランドとしての責任ある発信になります。
AIの長所はスピードと一貫性、人の強みは共感と判断力です。
両者を組み合わせることが、理想的な顧客対応につながります。

演習課題 03 （30点）

以下の問い合わせに対して、ChatGPTに入力するプロンプトを作成してください。

お客様が「注文した商品がまだ届かない」と問い合わせてきました。

ブランドトーン：落ち着いて誠実。目的：不安を和らげ、状況を丁寧に説明する。

演習課題 03 （30点）

■ **回答例**　「お客様から『注文した商品がまだ届かない』という問い合わせがありました。
落ち着いて誠実なトーンで、不安を和らげる返信文を作成してください。
発送状況を確認中であることを伝えつつ、お詫びの言葉を添えてください。」

■ **解説**　AIに文章を作らせる際、「感情」と「目的」を含めて指示することが、品質を左右します。
この場合、“落ち着いたトーン”と“不安の軽減”という2軸を明示しています。
AIはこれらをもとに、穏やかな文体で安心感のある表現を生成できます。
実際の出力例は、「このたびは商品のお届けが遅れ、ご不安をおかけしております。現在確認中でございます。」のようになります。
このように、トーン・目的・感情を具体的に伝えると、AIの出力は格段に人間らしくなります。

演習課題 04 （30点）

以下の条件に基づき、ChatGPTに返信文を作成させるためのプロンプトを作成してください。

- **テーマ：返品希望への対応**
- **顧客の感情：やや不満**
- **ブランドトーン：丁寧で温かい**
- **目的：お詫びと対応方針の提示**

演習課題 04 （30点）

■ **回答例**　「お客様から商品の返品希望に関するお問い合わせがあり、やや不満のご様子です。
丁寧で温かいトーンで、お詫びと今後の対応方針を説明する返信文を作成してください。
お客様の不快な気持ちを和らげ、誠実な姿勢が伝わるようにしてください。」

■ **解説**　AIに感情情報を与えることで、対応文の温度を調整できます。
「やや不満」などのキーワードは、AIがトーンを選ぶ手がかりになります。
ここでの目的は、「謝罪」＋「対応」＋「共感」の3要素をバランスよく含めることです。
AIにこの指示を出すと、「このたびはご不快な思いをさせてしまい申し訳ございません。返品手続きについてご案内いたします。」という出力が得られるでしょう。
AIの出力を最終的に整える際には、文末の柔らかさや、顧客の気持ちに寄り添う接続詞（たとえば「お手数ですが」「ご安心くださいませ」など）を追加するのが効果的です。

令和7年度文部科学省委託
「専門職業人材の最新技能アップデートのための専修学校リカレント教育推進」事業

アパレル業界における生成AIの利活用の知識と技術

演習課題

09AIによる顧客アンケート分析



演習課題 01

（20点）

顧客アンケートがアパレルブランドにとって果たす役割を3つ挙げ、それぞれの意義を具体的に説明してください。

演習課題 01 （20点）

■ **回答例**

1. 顧客ニーズの把握
   顧客の満足・不満の声から、商品改良やサービス改善の方向性を明確にできる。
2. ブランド信頼の向上
   意見を聞き入れ反映する姿勢が、顧客との信頼関係を深める。
3. 新商品の企画支援
   購入理由や使用シーンを分析することで、次の商品開発に活かせる。

■ **解説**

顧客アンケートは、ブランドの“現在地”を知るための鏡です。
販売データではわからない顧客心理や感情を読み取ることで、改善点が明確になります。
たとえば「着心地は良いが丈が長い」という声が多ければ、次回のサイズ展開に反映できる。
また、アンケートを通じて「声を聞いてくれるブランド」という印象を与えること自体が信頼構築につながります。
特にアパレル業界では、トレンドだけでなく顧客との共感がブランド価値を支えます。

演習課題 02 （20点）

従来型のアンケート分析とAIによる分析を比較し、

それぞれの長所と短所を簡潔に整理してください。

演習課題 02 （20点）

■ **回答例**

1. 従来型分析
   長所：人の感性で細かなニュアンスを読み取れる。
   短所：時間と労力がかかり、主観が入りやすい。
2. AI分析
   長所：大量データを短時間で整理・分類でき、傾向を定量的に把握できる。
   短所：文脈や感情の微妙な違いを完全には理解できない。

■ **解説**

従来の人手による分析は、感情の機微や文化的背景の理解に優れます。
たとえば「丈が長くて少し残念」という言葉の“残念”のニュアンスを人は深く理解できます。
一方、エーアイは膨大なテキストを瞬時に分類し、共通項を抽出するのが得意です。
つまり、「スピードと網羅性」ではエーアイが勝り、「深い洞察」では人が優れています。
両者を組み合わせることで、質と効率の両立が可能になります。

演習課題 03 （30点）

以下の自由記述アンケートをChatGPTに分析させたい場合、適切なプロンプト文を作成してください。

「生地の触り心地は良いけれど、もう少し丈が短い方が好きです。配送は早くて助かりました。」

演習課題 03 （30点）

■ **回答例**　「次の顧客アンケートを分析してください。
良かった点と改善が望まれる点を分けて整理し、それぞれ一文でまとめてください。
アンケート内容:『生地の触り心地は良いけれど、もう少し丈が短い方が好きです。配送は早くて助かりました。』」

■ **解説**　AIに自由記述を分析させる際は、「観点」を明確にすることが重要です。
単に“分析して”と指示すると、AIは要約しかしません。
このプロンプトでは「良かった点」「改善点」という2つの軸を設定しており、AIは肯定的意見と要望を分けて出力します。
結果として、ブランド担当者は“何が評価され、どこを直すべきか”を即座に把握できます。
AIを“意見の分類者”として機能させる基本形です。

演習課題 04 （30点）

以下の設問に対して、ChatGPTで分析を行うためのプロンプトを作成してください。

アパレルブランドの「新作ワンピース」について、100件のアンケート結果があります。どの意見が多いかを把握し、次回のデザイン改善に生かしたい。

演習課題 04 （30点）

■ **回答例**　「次の条件でアンケートを分析してください。
・内容:『新作ワンピース』に関する100件の自由記述アンケート
・目的:よく出てくる意見や要望を把握し、デザイン改善に活かすこと
・出力形式:頻出する意見の上位5項目を箇条書きで提示し、それぞれ簡潔に要約してください。」

■ **解説**　分析系のプロンプトでは、「目的」と「出力形式」を指定することで、AIの出力が実務的になります。
このプロンプトでは「頻出意見を上位5項目で出す」と明示しており、AIが数値的傾向を意識して整理できます。
また、「デザイン改善に活かす」という目的があるため、AIは単なる要約ではなく、提案的なトーンでまとめます。
この構造を覚えることで、マーケティング・商品企画・CS分析など幅広く応用可能です。

令和7年度文部科学省委託
「専門職業人材の最新技能アップデートのための専修学校リカレント教育推進」事業

アパレル業界における生成AIの利活用の知識と技術

演習課題

10市場調査・競合調査での活用法



演習課題 01

（20点）

アパレル業界における市場調査の目的を3つ挙げ、それぞれの意義を具体的に説明してください

演習課題 01 （20点）

■ **回答例**

1. 顧客ニーズの把握
   消費者の嗜好・購買動機・不満点を把握し、次期コレクションや商品開発に反映するため。
2. 競合状況の理解
   他ブランドの動向や価格帯、販促手法を分析し、自社のポジションを明確化するため。
3. 市場機会の発見
   トレンドやライフスタイルの変化から、まだ満たされていないニーズや新しいターゲット層を見つけるため。

■ **解説**

市場調査の目的は、ブランドが「誰に」「何を」「どのように」届けるかを明確にすることです。
アパレル業界はトレンドの移り変わりが早く、感覚や経験だけでは判断を誤るリスクが高い。
たとえば、「ゆったりシルエット」が人気だからといって全世代に通用するわけではなく、年代別・用途別のデータ分析が必要です。
さらに、競合が増える中で「ブランドの立ち位置」を数値で確認することは、戦略設計の基本です。
つまり、市場調査は“感性の裏付けを取る”行為であり、創造の出発点でもあります。

演習課題 02 （20点）

AIによる市場分析の際に発生し得る3つのリスクを挙げ、それぞれに対する具体的な対策を述べてください。

演習課題 02 （20点）

■ **回答例**

1. 誤情報や偏ったデータのリスク
   信頼性のあるデータソースを複数参照し、一次情報との照合を行う。
2. 文脈誤解のリスク
   エーアイの分析結果を鵜呑みにせず、人が内容を再確認・再解釈する。
3. 個人情報や倫理問題のリスク
   公開情報のみを使用し、機密データを扱う場合は匿名化・同意取得を徹底する。

■ **解説**

AI分析の精度は、入力するデータの質に依存します。
ネット上の情報には古い・誤った・偏ったものが混在するため、必ず複数ソースをクロスチェックする必要があります。
また、AIは感情や背景を正確に理解できないため、数字やキーワードの“意味”を読み取るのは人間の役割です。
さらに、顧客情報や購買履歴を扱う場合、プライバシー保護や利用目的の明示が不可欠です。
AIは強力なツールですが、最終判断の責任は常に人にあります。

演習課題 03 （30点）

以下の課題をAI（ChatGPT）に分析させるとします。効果的なプロンプト文を作成してください。

「2024年秋冬の国内アパレル市場で注目されているデザイン傾向と主要ブランドの戦略を知りたい。」

演習課題 03 （30点）

■ **回答例**　「2024年秋冬の国内アパレル市場について、次の条件で分析してください。
・対象：日本国内の主要ファッションブランド
・期間：2024年秋冬シーズン
・目的：注目されているデザイン傾向とブランドごとの戦略を把握する
・出力形式：トレンド要素（色・素材・シルエットなど）とブランド事例を対応づけて整理してください。」

■ **解説**　AIへの分析依頼は、情報の「範囲」と「出力形式」を具体的に指定することが鍵です。
このプロンプトは“期間（秋冬）”“地域（国内）”“目的（傾向把握）”を明示しており、AIが焦点を絞った回答を生成できます。
また、「トレンド要素とブランド事例を対応づけて」と指示することで、一般論ではなく実務に使える整理表が得られます。
AIの強みは網羅性ですが、曖昧な依頼だと膨大で使いづらい情報になります。
指示の粒度を調整することが、実践的なプロンプト設計のコツです。

演習課題 04 （30点）

あなたがアパレルブランドの企画担当者だとします。新規ブランドを立ち上げる前に市場調査を行うとしたら、ChatGPTにどのような分析を依頼し、どんな情報を活用しますか？具体的な分析テーマと指示文の一例を記述してください。

演習課題 04 （30点）

■ **回答例**

1. 分析テーマ:
   20代後半女性を中心としたミニマルファッション市場の競合状況とブランド立ち位置の検討。
2. 指示文例:
   「20代後半の女性を主なターゲットとするミニマル系ファッションブランドについて、現在の国内市場を分析してください。主な競合ブランド・価格帯・販売チャネル・デザイン傾向を整理し、新規ブランドが参入できる市場の隙間（ポジション）を提案してください。」

■ **解説**

ブランド立ち上げの初期段階では、競合把握と差別化戦略が最重要です。
AIに分析させる際は、ターゲット層・ジャンル・目的を明示することで、戦略設計に直結する情報が得られます。
また、「提案してください」と入れることで、AIが要約ではなく“戦略的示唆”を出すようになります。
分析結果をもとに、人がデザイン方向や価格設定を検討する――この連携が現代の企画スタイルです。

令和7年度文部科学省委託
「専門職業人材の最新技能アップデートのための専修学校リカレント教育推進」事業

アパレル業界における生成AIの利活用の知識と技術

演習課題

11SWOTやペルソナ設計での活用アイデア



演習課題 01

（20点）

SWOT分析の4つの要素（強み・弱み・機会・脅威）をそれぞれ説明し、アパレルブランドにおける具体的な例を1つずつ挙げてください。

演習課題 01 （20点）

■ **回答例**

- 強み：ブランドの独自デザイン力やリピーターの多さなど、自社が他社より優れている要素。
  例：国内生産による高品質な仕立て。
- 弱み：改善が必要な課題やリソース不足など。例：SNS発信力が低く、若年層への認知が弱い。
- 機会：市場や環境の変化によって得られるチャンス。例：サステナブル素材への関心が高まっている。
- 脅威：競合や外部要因によるリスク。例：海外ファストファッションの低価格攻勢。

■ **解説**

SWOT分析は、自社の「内側」と「外側」を整理するフレームワークです。強みと弱みは内部要因であり、経営資源やブランド力、組織体制などが該当します。一方、機会と脅威は外部要因で、市場動向・消費者トレンド・競合状況などが含まれます。アパレル業界では、ブランド独自性や生産背景などの“強み”を活かしながら、トレンドや顧客行動といった“機会”を捉えることが重要です。SWOT分析は単なる現状把握ではなく、次の戦略を導くための「思考の起点」となります。

演習課題 02 （20点）

ペルソナ設計において、AIが得意とする作業と、人が担うべき作業をそれぞれ3つ挙げ、その違いを説明してください。

演習課題 02 （20点）

■ **回答例**　AIが得意とする作業：顧客データの分析・傾向抽出、SNS投稿やレビューのテキストマイニング、顧客層ごとの購買パターンの可視化
人が担うべき作業：ブランドの方向性に合った人物像の設定、顧客の感情や価値観の解釈、クリエイティブ表現への反映
違い：AIはデータからパターンを導くのが得意だが、「なぜその人物像がブランドらしいか」といった感性的判断は人にしかできない。

■ **解説**　市場調査の目的は、ブランドが「誰に」「何を」「どのように」届けるかを明確にすることです。
アパレル業界はトレンドの移り変わりが早く、感覚や経験だけでは判断を誤るリスクが高い。
たとえば、「ゆったりシルエット」が人気だからといって全世代に通用するわけではなく、年代別・用途別のデータ分析が必要です。
さらに、競合が増える中で「ブランドの立ち位置」を数値で確認することは、戦略設計の基本です。
つまり、市場調査は“感性の裏付けを取る”行為であり、創造の出発点でもあります。

演習課題 03 （30点）

以下のテーマで、ChatGPTにSWOT分析を依頼するプロンプト文を作成してください。

「日本国内の20～30代向けカジュアルアパレルブランド市場を分析したい。」

演習課題 03 （30点）

■ **回答例**　「日本国内の20～30代向けカジュアルアパレルブランド市場について、SWOT分析を行ってください。強み・弱み・機会・脅威をそれぞれ整理し、最新の業界トレンドや消費者行動を踏まえて説明してください。」

■ **解説**　SWOT分析を依頼する際は、「対象市場」「目的」「分析観点（強み・弱み・機会・脅威）」を明確にすることが重要です。ChatGPTは曖昧な依頼では抽象的な答えを返すため、範囲と要素を具体的に指定しましょう。また「最新のトレンド」や「消費者行動」を加えることで、現実的な分析結果が得られやすくなります。

演習課題 04 （30点）

あなたが新ブランドの立ち上げを担当すると仮定して、SWOT分析とペルソナ設計を組み合わせた戦略構築の手順を説明してください。

演習課題 04 （30点）

■ **回答例**

1. SWOT分析で自社の現状を整理（強み・弱み・機会・脅威）
2. 分析結果をもとにターゲット顧客層を定義
3. ペルソナを設定し、価値観・ニーズ・購買動機を明確化
4. ブランドメッセージや商品企画を構築
5. AIでシナリオや反応をシミュレーションし、戦略を検証

■ **解説**

戦略構築では、まずSWOT分析によって方向性を決定し、次にペルソナで顧客像を具現化します。
この順序により、「誰に」「何を」「どう伝えるか」を一貫して設計できます。
AIを補助的に活用すれば、仮説検証やシミュレーションも容易になり、戦略精度が高まります

令和7年度文部科学省委託
「専門職業人材の最新技能アップデートのための専修学校リカレント教育推進」事業

アパレル業界における生成AIの利活用の知識と技術

演習課題

12Excel・データ処理系の支援活用



演習課題 01

（20点）

アパレル業界において、Excelやデータ処理が重要とされる理由を説明してください。

（100〜150字程度）

演習課題 01

（20点）

■ **回答例**　アパレル業界では、販売・在庫・仕入・顧客情報など多様なデータを扱うため、Excelによるデータ処理が不可欠である。数値の整理や傾向分析を通して、需要予測や在庫最適化、販促戦略の立案などにつなげられるためである。

■ **解説**　アパレル業界は、シーズンごとに商品サイクルが早く、売れ行きや在庫の変化も激しいため、リアルタイムでデータを把握することが重要です。Excelは、販売数・在庫量・粗利・発注履歴などを一覧的に整理でき、意思決定の基盤を支えるツールとして機能します。生成AIと組み合わせることで、データの自動整形・分析・レポート化も可能となり、従来の手作業から「判断支援」へと進化します。

演習課題 02

（20点）

生成AIがExcel業務のどのような領域を支援できるか、具体例を3つ挙げて説明してください。

演習課題 02

（20点）

■回答例

- 関数作成の支援：売上集計や平均値算出などの関数を自動生成する。
- データ整理：重複データや空欄を検出し、整形ルールを提案する。
- レポート作成：販売傾向を要約し、グラフや文章で報告書を生成する。

■解説

生成AIは、Excelの「操作サポート」「分析支援」「可視化補助」の3領域で活用可能です。ChatGPTなどのツールを用いれば、「特定列の平均を求める関数を作って」といった自然言語の指示を理解して関数を自動生成します。また、データの異常値検出・表の整形・グラフ化も迅速に行えます。さらに、「売上傾向を3行でまとめて」などの依頼で、ナラティブなレポートまで自動作成が可能です。

演習課題 03

（30点）

次のようなExcelデータがあります。

A列：商品名　B列：販売数　C列：単価

これをもとに「売上金額（販売数×単価）」を自動計算する関数をAIに依頼する場合、どのように指示（プロンプト）を作成すればよいか、文章で記述してください。

演習課題 03

（30点）

■ **回答例**　「Excelで、A列が商品名、B列が販売数、C列が単価になっています。それぞれの商品の売上金額（販売数×単価）をD列に自動計算する関数を教えてください。」

■ **解説**　AIに指示を出す際は、①対象範囲、②目的、③出力形式を明確に伝えることが基本です。この例では、列の指定（A～C列）と目的（売上計算）を明確に示しているため、ChatGPTは「=B2*C2」といった関数や、列全体への自動入力方法を返してくれます。さらに、「全行に自動で適用したい」と付け加えれば、効率的なコード例（VBAやスクリプト）も提示される場合があります。

演習課題 04

（30点）

あなたがアパレル企業の業務担当者だとします。

販売・在庫データをAIと連携して業務効率化するための活用アイデアを、

あなた自身の言葉で具体的に提案してください。

（150～200字程度）

演習課題 04

（30点）

■ **回答例**　販売データと在庫データをAIに連携させ、売れ筋商品の自動抽出と在庫補充提案を行う仕組みを導入する。
AIが販売推移を分析し、在庫不足や過剰在庫をリアルタイムで検知することで、担当者は発注判断や販売戦略の最適化に集中できるようにする。

■ **解説**　AIを用いた業務効率化では、単なる“自動化”ではなく、“判断支援”を意識することが重要です。アパレル業界では、在庫の過不足が利益に直結するため、AIによるトレンド分析・需要予測・自動補充提案が有効です。さらに、販売データをもとに「地域別」「店舗別」「アイテム別」の動向を可視化すれば、戦略的な商品展開や販促企画の立案が可能になります。

令和7年度文部科学省委託
「専門職業人材の最新技能アップデートのための専修学校リカレント教育推進」事業

アパレル業界における生成AIの利活用の知識と技術

演習課題

13画像生成AIの概要



演習課題 01

（20点）

画像生成AIの基本的な仕組みを、自分の言葉で100～150字程度で説明してください。

「テキスト入力」「意味解析」「画像生成モデル」「出力と修正」の4ステップに触れてください。

演習課題 01 （20点）

■ **回答例**　画像生成AIは、まず「テキスト入力」で指示を受け取り、「意味解析」で意図を理解する。次に「画像生成モデル」が学習データをもとに画像を生成し、「出力と修正」でユーザーが微調整を行うことで、完成度を高めていく仕組みである。

■ **解説**　画像生成AIのプロセスは、自然言語処理と画像生成モデルが連携して動作しています。
テキスト入力では「どんなイメージを描くか」を指示し、意味解析で文中の要素（人物・構図・雰囲気など）を分解します。
その後、生成モデル（例：拡散モデル）が膨大な画像データを学習した結果をもとに、新しい画像を生成します。
最終段階では、明るさ・背景・構図などを修正し、ブランドの世界観に合わせた完成画像を出力します。

演習課題 02 （20点）

Midjourney、DALL·E、Stable Diffusion、Nanobananaのうち、業務で使う場合に「アパレル業界に適している」と思うツールを1つ選び、その理由を100字程度で説明してください。

演習課題 02 （20点）

■ **回答例**　Midjourneyは、質感表現や光の表現が美しく、ファッション撮影のような仕上がりを得やすい。ルックブックやキャンペーンビジュアルの作成など、アパレル業界のビジュアル表現に特に適している。

■ **解説**　Midjourneyは、芸術的で写真ライクな質感が得意なツールです。
一方、DALL·Eは構図の整合性、Stable Diffusionは自由度、Nanobananaは日本語対応に優れています。
アパレル業界では、衣服の質感・素材感・照明効果が重要なため、Midjourneyの出力が最も適しています。
ブランドのトーンを忠実に再現するには、プロンプト設計とバージョン選択が鍵となります。

演習課題 03 （30点）

「秋冬新作コートのルックブック用ビジュアル」を生成してください。

プロンプトに必ず①季節②質感③背景④構図を含めて記述してください。

演習課題 03 （30点）

■ **回答例**　「秋冬の街角、やわらかい日差しの中で女性がウールコートを羽織って歩いているシーン。コートの質感はふんわりと温かく、背景はレンガ造りの建物。構図は全身を写し、自然光で柔らかい印象。」

■ **解説**　このプロンプトでは、季節＝秋冬、質感＝ウールのふんわり感、背景＝街角、構図＝全身撮影が明示されています。
生成AIにおいては、曖昧な言葉よりも「具体的で視覚的」な表現が効果的です。
たとえば「温かい光」や「レンガの街並み」など、素材や空気感を連想させる単語を使うことで、ブランドトーンに近い画像を得やすくなります。

演習課題 04 （30点）

「ブランドキャンペーン用のキービジュアル」を生成してください。テーマは“都市×軽やかさ”。ブランドトーンを表現するため、光・色・構図の要素を意識したプロンプトを記述してください。

演習課題 04 （30点）

■ **回答例**　「夕暮れの都市ビル群を背景に、風に揺れる軽やかなドレスを着た女性が歩くシーン。透明感のある光、淡いブルーとベージュの色調。構図は広角で奥行きを感じる。」

■ **解説**　このプロンプトでは、テーマ“都市×軽やかさ”を光と色で表現しています。淡色トーン・広角構図・風の動きを強調する言葉を入れることで、視覚的な開放感を演出します。ブランドトーンを明確に伝えるには、「色（cool or warm）」「光（morning or dusk）」「構図（close-up or wide）」といった要素の指定が欠かせません。

令和7年度文部科学省委託
「専門職業人材の最新技能アップデートのための専修学校リカレント教育推進」事業

アパレル業界における生成AIの利活用の知識と技術

演習課題

14ファッション画像の生成の仕組み



演習課題 01

（20点）

画像生成AIの基本的な仕組みを、自分の言葉で100～150字程度で説明してください。

「テキスト入力」「意味解析」「画像生成モデル」「出力と修正」の4ステップに触れてください。

演習課題 01 （20点）

■ **回答例**　ユーザーがテキストを入力すると、AIはその内容を意味解析して意図や要素を数値的に理解します。次に画像生成モデルが、学習データをもとに構図や質感・光の表現を推定し、画像として出力します。最後に結果を確認し、プロンプトを調整しながら修正を重ねることで、完成度を高めていきます。

■ **解説**　画像生成AIは、言葉を画像に「翻訳」する技術であり、言語理解と視覚表現の両面を組み合わせています。テキスト入力では、目的・構図・質感などをできるだけ具体的に記述することが大切です。意味解析の段階でAIは文章をトークン化し、「何を・どのように表現するか」を数値的に解釈します。そのうえで、画像生成モデル（例：拡散モデル）がノイズから少しずつ画像を形づくり、最終的に出力します。修正のプロセスは、人間の創造的意図を反映させるための“共同作業”のようなものであり、この段階こそがブランドや表現の個性を決定づけます。

演習課題 02 （20点）

ファッション分野における画像生成AIの主な活用目的を3つ挙げ、それぞれを簡潔に説明してください。

演習課題 02 （20点）

■ **回答例**　① 商品デザイン支援：デザイナーが発想段階でアイデアを視覚化し、試作コストを抑えられる。
② 販促ビジュアル制作：広告やSNS用の画像を短時間で生成し、ブランドトーンに合わせた表現を量産できる。
③ 顧客体験向上：ユーザーが自分の好みや体型に合わせた着用イメージを生成し、購買意欲を高める。

■ **解説**　ファッション業界では、画像生成AIの導入が急速に進んでいます。特に、デザイン初期段階でのアイデア展開・販促用ビジュアルの効率制作・顧客接点での体験設計といった場面で効果が大きいです。AIは「スピード」と「多様性」に強みがあり、従来の手作業を補うだけでなく、新しい発想を刺激する存在になっています。また、生成過程で得られる画像はそのまま最終出力ではなく、あくまで検討素材としての価値も高い点が特徴です。

演習課題 03 （30点）

画像生成AIを活用して、ブランドトーンを保ちながら多様なビジュアル展開を行うためのポイントを2つ挙げて説明してください。

演習課題 03 （30点）

■ **回答例**　① プロンプトテンプレート化：ブランドの色調・質感・雰囲気を一定に保つため、共通の指示文を設定する。
② モデル画像の再利用：前回生成した人物や構図を基に新しいシーンを作成し、世界観の統一を維持する。

■ **解説**　AIによるビジュアル制作では、ブランドトーンの統一が大きな課題です。特にテイストの違う画像が混在すると、SNS投稿やECページ全体の印象が不安定になります。プロンプトテンプレートを使えば、キーワードの一貫性が保たれ、品質を安定させることができます。また、同じモデルやポーズを再利用することで、ファッション誌の連続企画のようなストーリー性を持たせることも可能です。AIは多様性を生み出す一方で、統一感を保つ仕組みづくりが必要になります。

演習課題 04 （30点）

画像生成AIを活用する上での倫理的・社会的課題を2つ挙げ、それぞれに対する具体的な対応策を提案してください。

演習課題 04 （30点）

■ **回答例**　① 著作権の懸念：学習データに既存作品が含まれる可能性があるため、出典管理と商用利用ガイドラインの明確化が必要。

② 偏見表現のリスク：多様な人種・性別・体型のデータを意識的に使用し、生成結果を人が検証して修正するプロセスを設ける。

■ **解説**　AIの進化は創造性を広げる一方で、社会的・法的な課題を浮き彫りにしています。特に、著作権や肖像権、文化的ステレオタイプの再生産は重要な懸念点です。これらの課題は、ツール任せではなく、組織としての倫理基準の整備や教育によって防ぐ必要があります。たとえば、利用前に「生成画像の商用利用可否」や「出典ポリシー」を確認するチェックリストを設けることが有効です。

令和7年度文部科学省委託
「専門職業人材の最新技能アップデートのための専修学校リカレント教育推進」事業

アパレル業界における生成AIの利活用の知識と技術

演習課題

15コーディネート画像作成の具体例



演習課題 01

（20点）

生成AIを活用して「春のカジュアルコーディネート」を提案する画像を制作してください。アイテム構成・背景・モデルの特徴を具体的に設定し、ブランドトーンを意識したプロンプトを作成してください。

演習課題 01 （20点）

■ **回答例**　「春の街角を歩く20代女性。淡いピンクのニットに白のプリーツスカート。ナチュラルな光、桜並木の背景。清潔感と軽やかさを強調する。」

■ **解説**　ファッション画像生成では、季節感・色彩・雰囲気の一貫性がブランド表現の核となる。春を表現する際は「光の質」や「空気感」を明確に指示することで、AIが生成する画像のトーンが安定する。また、ブランドの持つ「品」「遊び」「親しみ」といった抽象的な要素を、服の質感や背景選定に落とし込むことが重要である。たとえば「清潔感＝白・自然光」「上品さ＝淡色と整理された構図」といった対応づけを意識すると効果的。この課題は、AIが単に服を描くのではなく、ブランドの世界観を視覚化するための設計力を養うものである。

演習課題 02 （20点）

「オンライン販売ページに掲載するコーディネート画像」を生成AIで作成する際、購買促進に効果的な構図や視点を意識してプロンプトを設計してください。

演習課題 02 （20点）

■ **回答例**　「オンラインショップ用。全身を正面から撮影したような構図。自然光のスタジオで、商品全体がはっきり見える。シンプルな白背景で清潔感を重視。」

■ **解説**　ECにおけるコーディネート画像は、視覚的に“商品を信頼させる”ことが最重要課題である。AI生成では撮影条件を明確に指定することで、リアリティの高い出力を得られる。「白背景」「自然光」「正面構図」などは、購買判断に最も影響を与える要素だ。一方、背景が複雑すぎると商品よりも雰囲気が目立ち、購買意欲を阻害するケースもある。したがって、目的が販促の場合、アート性よりも情報の明快さを優先すべきである。さらに、AI生成では商品が“映える”ためのバランス調整（影の出方・ポーズ・照明方向など）を細かく指定すると、よりプロフェッショナルな仕上がりとなる。

演習課題 03 （30点）

顧客の属性（例：年齢・性別・ライフスタイル）に基づいて、生成AIを使い「パーソナライズされたスタイリング提案画像」を作成するプロンプトを考案してください。

演習課題 03 （30点）

■ **回答例**　「30代の働く女性。オフィスにも着ていける春のきれいめカジュアルコーデ。ベージュのトレンチコートに白シャツ、黒パンツ。明るい自然光の街中背景。」

■ **解説**　AIが生成する画像の品質は、入力情報の具体性に比例する。特に人物像・利用シーン・感情トーンを細かく設定することで、より現実的で説得力のある提案画像が生まれる。また、ファッション業界ではパーソナライゼーションが購買率を大きく左右する。AIを使ってスタイル別・体型別・年代別のバリエーションを高速生成することで、従来のビジュアル制作コストを劇的に削減できる。重要なのは、AIを顧客理解の補助として扱い、常に“誰のために”という視点を失わないことだ。

演習課題 04 （30点）

バーチャル試着機能を想定し、ユーザーがリアルタイムに着用イメージを確認できるような生成AIプロンプトを設計してください。

演習課題 04 （30点）

■ **回答例**　「女性モデルが白いワンピースを着用。サイズをMからLに変更、背景を室内から屋外に切り替え。光の質感を自然に調整。リアルタイムで変化が反映されるように生成。」

■ **解説**　バーチャル試着におけるAIの役割は、“選択の不安を解消すること”である。リアルタイム生成では、ユーザー操作による条件変更を即座に反映する必要があるため、プロンプトはパラメータ化（例：色・サイズ・背景）を前提として構築する。さらに、画像の自然さを保つために「影の方向」「肌の質感」「服のしわ」などの要素も考慮しなければならない。これらを適切に指定することで、実際の試着に近い視覚的リアリティが得られる。

令和7年度文部科学省委託
「専門職業人材の最新技能アップデートのための専修学校リカレント教育推進」事業

アパレル業界における生成AIの利活用の知識と技術

演習課題

16バナーやPOPの生成と工夫



演習課題 01

（20点）

生成AIを活用して制作した画像やデザインを、実務で安全に使用するための品質チェックリストを作成してください。

チェック項目には**「技術的品質」「ブランド整合性」「法的・倫理的リスク」**の3つの視点を必ず含めてください。

演習課題 01 （20点）

■ **回答例**　チェックリスト例：

解像度・構図・明るさに破綻がないか

ブランドカラー・フォント・ロゴ位置がルールに合致しているか

実物の商品イメージと乖離していないか

不自然な人体・物体の歪みがないか

差別的・不快・誤解を招く要素が含まれていないか

著作権・肖像権の侵害リスクがないか

出力元AIや生成プロンプトの履歴を記録しているか

■ **解説**　AIの生成結果は、表面上は魅力的でも“見えない欠陥”を含むことがあります。たとえば光源の方向が矛盾していたり、指の形や文字の配置が微妙に歪んでいたりします。こうした要素を発見するのは、AIではなく人間の観察力です。また、商業利用の観点では「生成物をどう扱うか」の方が「何を作るか」よりもリスクが大きいことがあります。生成AIの出力には学習データ由来の著作物や人物特徴が混在している場合があり、社外発信時にトラブルにつながる可能性があります。したがって、チェックリストを整備し、複数人で運用・承認を行う体制を構築することが、生成AIの“安全な実装”に直結します。

演習課題 02 （20点）

店頭POPを企画すると仮定して、伝えるべき内容を整理し、情報構成案を作成してください。

メッセージの優先順位と、視覚的にどの要素を強調すべきかを明確に示してください。

演習課題 02 （20点）

■ **回答例**　メインコピー（感情を動かす言葉）
メインビジュアル（視線を集める中心）
サブコピー（購買理由を補足）
商品名・価格情報（明快に）
ブランドロゴ（信頼性の印）
行動喚起（購入・予約・試用など）

■ **解説**　AIにデザインを任せる前に、何を伝えるのかを設計することが重要です。AIは配置や装飾の調整は得意でも、「メッセージの重み」までは理解できません。情報設計とは、視覚的な整理だけでなく、“人が何を先に理解するか”という順序設計です。キャッチコピーを最上段に置くのは、視線が上から下に流れるという人間の特性に基づいています。情報の優先順位を明確にすることは、AI生成後の修正工数を減らす最も効果的な方法でもあります。

演習課題 03 （30点）

春キャンペーンのバナーを生成AIで制作するためのプロンプトを考えてください。

生成結果の中から最も「ブランドらしい」と感じる1枚を選び、選定理由を論理的に説明してください。

演習課題 03 （30点）

■ **回答例**　プロンプト例：「春の風を感じる屋外シーン。淡いグリーンとピンクを基調に、柔らかい光の中で笑顔の女性が歩く。新生活の希望を感じさせるナチュラルなトーン。」

■ **解説**　AIが生成したバナーを評価する際には、3つの観点を意識します。

1. 視覚的品質：光・構図・色調のバランスがとれているか。
2. ブランド整合性：自社トーンに合うか（高級・ナチュラル・カジュアルなど）。
3. 感情的共鳴：見た人にどんな感情を与えるかが意図通りか。

AI出力の中には、構図や表情の違いで印象が大きく変わるものがあります。同じテーマでも「希望」「安らぎ」「期待」といった微妙なニュアンスをどう読み取るかが選定の腕の見せどころです。

演習課題 04 （30点）

生成AIを活用して、店舗POPを制作してください。

印刷・掲示を前提に、視認性と訴求力を両立させるデザイン上の工夫を具体的に示してください。

演習課題 04 （30点）

■ **回答例**　プロンプト例：「セール中のアパレルショップ店頭POP。白背景に赤文字で『SPRING SALE』。中央に配置し、周囲に花のモチーフをあしらう。遠くからでも明るく見える構図。」

■ **解説**　POPの目的は「数秒で理解させ、足を止めさせること」です。生成AIで制作する際は、“情報を詰め込まない勇気”が重要になります。視認性を高めるには、コントラスト・余白・中央集中構図を明確に指示します。AIに対して「遠くから見ても読める」「白背景で赤文字を中央に配置」など、目で見た印象を言語化して伝えると効果的です。また、出力後の調整で色味を少し明るめに補正すると、実際の照明環境下でも鮮明に見える傾向があります。

令和7年度文部科学省委託
「専門職業人材の最新技能アップデートのための専修学校リカレント教育推進」事業

アパレル業界における生成AIの利活用の知識と技術

演習課題

17Webサイト用素材生成のポイント



演習課題 01

（20点）

Webサイトにおける素材生成に「生成AI」を活用する意義を、

①業務効率　②ブランド表現　③クリエイティブの拡張

の3つの観点から整理してください。

演習課題 01 （20点）

■ **回答例**　①業務効率：素材制作の初期案を素早く出し、修正時間を短縮できる。
②ブランド表現：統一したトーンで多様なビジュアルを展開できる。
③クリエイティブ拡張：人間の発想を超えた構図や色彩を試せる。

■ **解説**　生成AIの導入は、単に作業スピードを上げるためではなく、
クリエイティブ業務そのものの質を変えることに意義がある。
従来、デザイン制作には試行錯誤の時間が多く必要だったが、
AIを活用すれば初期段階で複数の方向性を素早く比較できる。
特にWeb制作においては「更新頻度の高さ」と「ビジュアルの一貫性」が求められるため、
AIによる素材生成は効率面だけでなく、ブランド体験の安定化にも直結する。
さらに、AIが生み出す構図や光の表現は人の感覚にない新しい要素を含み、
“偶然の発見”を促すことで創造性の拡張にもつながる。

演習課題 02 （20点）

生成AIでWeb素材を作成するときに、

プロンプト設計で注意すべき3つのポイントを挙げ、

それぞれの理由を説明してください。

演習課題 02 （20点）

■ **回答例**　①目的の明確化：使用場所によって構図や印象が変わるため。
②トーンの統一：ブランドの世界観を維持するため。
③再現性の確保：同じ条件で生成を再現できるようにするため。

■ **解説**　プロンプトは、生成AIに対する「設計書」や「仕様書」にあたる。
どんな目的で、どんな印象の画像を求めているのかが明確でないと、
出力結果が毎回異なってしまい、制作工程に再現性がなくなる。
また、Webサイトでは複数のページや素材を並べて使うため、
トーンや光の方向、色の温度などを統一しておくことが不可欠である。
特にブランドサイトでは、ビジュアルの一貫性がブランド信頼を支えるため、
プロンプト段階から明確な意図と条件設定が求められる。
さらに、AIの挙動を安定化させるためには、再生成した際にも近い結果を得られる
再現性の高いプロンプト設計が重要になる。これが実務上の品質管理にも直結する。

演習課題 03 （30点）

トップページのメインビジュアルを生成するためのプロンプトを作成してください。

ブランドの世界観（例：洗練・ナチュラル・エレガントなど）を踏まえ、

背景・光・被写体・トーンを具体的に指定してください。

演習課題 03 （30点）

■ **回答例**　「明るい自然光の中で、白背景にナチュラルな質感のドレスを着た女性モデル。
柔らかな光で清潔感を演出し、全体をベージュトーンで統一。」

■ **解説**　メインビジュアルは、ブランドサイトの“第一印象”を決定する要素である。
ユーザーが最初に目にする画像が、ブランドの信頼や購買意欲に直結するため、
AI生成であっても構図・光・色味・トーンの全てに明確な設計意図が必要になる。
ここで重要なのは、単なる「きれいな画像」ではなく、
ブランドのメッセージや世界観を視覚的に表現できているかどうか。
たとえば「ナチュラル」な印象を出したい場合、
“柔らかい光”や“白・ベージュ系の背景”が有効で、
“強いコントラスト”や“人工的な照明”は避けるべきといえる。
このように、言葉でトーンを定義し、構成を具体化することが、
AI生成をブランド表現の一部として活かす鍵になる。

演習課題 04 （30点）

商品詳細ページで使用する「商品画像と背景素材」に統一感を持たせるための

プロンプトを設計してください。

複数商品に展開してもデザインの一貫性が保たれるようにしてください。

演習課題 04　（30点）

■ **回答例**　「白背景で自然光を使用し、商品を中央に配置。
光の方向は左上から下向き。影は浅く、反射を抑える。」

■ **解説**　商品画像の品質を決定づけるのは「統一感」である。
どんなに個々の画像が美しくても、一覧で並べたときにトーンがバラつくと、
ユーザーは無意識に“違和感”を覚える。
そのため、プロンプト段階から光源の方向・構図・背景の明度などを
明示的に指定することが欠かせない。
さらに、シリーズ展開を想定した場合、
同じ条件を再生成できるようプロンプトをテンプレート化しておくことが重要である。
これは単に作業効率を上げるだけでなく、
ブランドの品質を担保する「生成ディレクション」としての役割も果たす。

令和7年度文部科学省委託
「専門職業人材の最新技能アップデートのための専修学校リカレント教育推進」事業

アパレル業界における生成AIの利活用の知識と技術

演習課題

18動画生成AIの活用範囲



演習課題 01

（20点）

動画生成AIの普及が、アパレル業界における映像制作プロセスにどのような変化をもたらしたのかを説明してください。

演習課題 01 （20点）

■ **回答例**　動画生成AIの導入により、撮影現場の準備やモデルの手配といった工程を省略でき、制作コストと時間を大幅に削減できるようになった。また、AIが自動で背景や動きを生成するため、短期間で多様な映像バリエーションを制作することが可能となった。

■ **解説**　動画生成AIは、従来の映像制作の枠組みを根本的に変える技術である。これまで人手や設備が必要だった撮影・編集工程を自動化し、スピード・コスト・クオリティのバランスを再定義した。特にアパレル業界では、ブランドムービーや商品紹介映像の制作が容易になり、小規模ブランドでも大手並みの表現力を獲得できるようになっている。

演習課題 02 （20点）

動画生成AIを活用したブランディング動画制作において、

最も重要な要素は何かを説明してください。

演習課題 02 （20点）

■ **回答例**　ブランドの世界観を明確に定義し、それを一貫したトーンや演出で表現することが最も重要である。AIによる生成結果はプロンプト次第で大きく変わるため、ブランドイメージを反映する言葉や構図の指定が鍵となる。

■ **解説**　生成AIをブランディング目的で用いる際は、映像の品質や動きよりも、ブランドの「感情的トーン」を伝えることが重視される。したがって、事前にブランドの核となるキーワードやビジュアルスタイルを整理しておく必要がある。統一された指針がなければ、AIの生成結果がばらつき、ブランドの一貫性が損なわれる。

演習課題 03 （30点）

新作コレクションのプロモーション動画を生成AIで制作する場合の

プロンプト設計を考えてください。

演習課題 03 （30点）

■ **回答例**　「白い背景のスタジオで、女性モデルがゆっくりと歩きながら春の新作ワンピースを紹介する。柔らかい自然光、軽やかな音楽、ナチュラルで温かみのある雰囲気。ブランドロゴが最後に表示される。」

■ **解説**　動画生成におけるプロンプトは、静止画よりも「動き」と「時間の流れ」を含めて設計する必要がある。モデルの動作やカメラの動き、照明の変化などを具体的に記述することで、より精度の高い出力が得られる。

演習課題 04 （30点）

動画生成AIを使って「ブランドストーリー」を表現するためのプロンプトを開発してください。テーマは「サステナブルな未来」です。

演習課題 04 （30点）

■ **回答例**　「自然の光に包まれた森の中で、風に揺れる布が映し出される。そこから衣服を着たモデルが現れ、やさしく微笑む。緑・風・光をモチーフに、サステナブルな価値を象徴する映像。静かなピアノのBGM。」

■ **解説**　ブランドストーリーを映像化する際は、「メッセージ性」と「象徴表現」のバランスが重要である。生成AIでは、ストーリーの流れを説明的に描くよりも、象徴的な情景や感情を喚起するビジュアルで伝える方が効果的である。

令和7年度文部科学省委託
「専門職業人材の最新技能アップデートのための専修学校リカレント教育推進」事業

アパレル業界における生成AIの利活用の知識と技術

演習課題

19スタイリング提案の自動化とAI



演習課題 01

（20点）

AIによるスタイリング提案がアパレル業界にもたらす最大の変化について、

「顧客体験」「ブランド運用」「生産性」の3つの観点から説明してください。

演習課題 01 （20点）

■ **回答例**　AIによるスタイリング提案は、顧客一人ひとりに最適化された提案を実現し、
体験の質を高める点で大きな変化をもたらしている。
ブランド側では、表現やトーンの統一を保ちながら大量のビジュアル生成が可能になり、
運用の幅が広がっている。さらに、生産性の向上により、
スタイリストやデザイナーは創造的業務に集中できるようになっている。

■ **解説**　AIの導入は「顧客体験の最適化」「業務の効率化」「ブランド戦略の拡張」という三方向の効果を生む。
従来は人的コストと時間を要したスタイリング提案をデータ駆動で再構築できるため、
企業はより多様な顧客層に対応可能になる。
ただし、AI提案が単調化するとブランドらしさが失われる可能性があるため、
人間の創造性とのバランスを取ることが極めて重要である。

演習課題 02 （20点）

AIスタイリング提案を運用する上で、ブランドのトーン&マナーを維持するために必要な仕組みを
具体例を挙げて説明してください。

演習課題 02 （20点）

■ **回答例**　ブランドトーンを維持するには、AIに明確な「ブランドルール」を学習させることが重要である。
たとえば、使用する色、ポーズ、撮影背景、言葉遣いなどを具体的に定義し、
生成時に常に参照させる。加えて、出力結果をクリエイティブ担当者がレビューし、
ブランド整合性を確認する運用体制を設けることが望ましい。

■ **解説**　AIは大量のパターン生成が得意だが、ブランド固有の価値観や雰囲気を自律的に理解するわけではない。
そのため「ガイドライン＋人のチェック」が不可欠になる。
また、同一のブランドでもキャンペーンや季節ごとに微調整が必要となるため、
AIモデルに対して継続的な更新とフィードバックを行う運用体制が重要である。

演習課題 03 （30点）

AIに「ブランドの世界観を反映したスタイリング提案」をさせるためのプロンプトを作成してください。

演習課題 03 （30点）

■ **回答例**　「30代女性向けの上品で落ち着いたトーンのブランド。
オフィスでも休日でも着られる、ベージュ系のカジュアルフォーマルコーデを提案してください。
全体の印象は“知的で優しい”をキーワードに構成してください。」

■ **解説**　効果的なプロンプトは「ターゲット層」「シーン」「色調」「ブランドトーン」を明示的に含む。
曖昧な指示ではAI出力が不安定になるため、具体的かつブランドらしい要素を定義することが重要。
また、生成結果を検証し、修正を重ねることで精度を高めるプロセスも大切である。

演習課題 04 （30点）

AIを使って「複数パターンのスタイリング提案」を生成するプロンプトを考え、

その後の運用方法（選定・保存・再利用）も含めて説明してください。

演習課題 04 （30点）

■ **回答例**　「20代女性向けのフェミニンブランドとして、春の新作トップスを使ったスタイリングを5パターン提案してください。
それぞれに“華やか”“ナチュラル”“モード”“シンプル”“ガーリー”のテーマを設定し、
コーディネートの特徴を短いコメントで添えてください。」
生成後、チームで最もブランドトーンに合うものを選定し、
良質な出力は今後のキャンペーン素材として保存・再利用する。

■ **解説**　AIによる複数生成を活かすには、テーマごとに明確な方向性を与えることが重要。
生成後は「評価」「共有」「再利用」という三段階で運用し、
データベース化することで長期的な資産として機能させることができる。

令和7年度文部科学省委託
「専門職業人材の最新技能アップデートのための専修学校リカレント教育推進」事業

アパレル業界における生成AIの利活用の知識と技術

演習課題

20ファッション業界の事例紹介（国内）



演習課題 01

（20点）

国内ファッション業界におけるAI活用の広がりを支える社会的背景を3つ挙げ、それぞれが業界にどのような影響を与えているか説明してください。

演習課題 01 （20点）

■ **回答例**　1. 労働人口の減少：省人化・自動化のニーズが高まっている。
2. デジタル化の進展：データ活用による業務効率化が可能に。
3. 消費行動の多様化：パーソナライズされた提案が求められている。

■ **解説**　国内アパレル産業は、少子高齢化による人材不足、店舗運営コストの上昇、デジタル購買への移行など、複数の課題に直面している。AIの導入はそれらの課題を解決するための手段として進展している。特に近年は、オンライン購買の増加によって膨大な顧客データが得られるようになり、AIがその分析・最適化を担うようになった。AIの浸透は、業務の効率化だけでなく、新しいビジネスモデルの創出にもつながっている。

演習課題 02 （20点）

UNIQLOとZOZOのAI活用事例を比較し、それぞれの強みと特徴をまとめてください。

演習課題 02 （20点）

■ **回答例**　UNIQLO：需要予測や在庫管理を中心に、業務効率化と供給最適化に強み。
ZOZO：体型データや個人情報を活用し、顧客体験の個別最適化に強み。

■ **解説**　UNIQLOはAIによるデータ分析を通じて「商品を作る側の効率化」を進め、全世界で一貫したオペレーション体制を築いている。一方でZOZOは「顧客一人ひとりへの最適化」を重視し、AIがユーザーの体型・嗜好をもとに商品を提案する仕組みを採用している。この違いは、企業のビジネスモデルや顧客接点の設計方針に表れており、AIが「効率のUNIQLO」と「体験のZOZO」を形づくっているといえる。

演習課題 03 （30点）

AI導入によって国内ブランドにもたらされた「顧客との関係性の変化」について、具体例を挙げながら説明してください。

演習課題 03 （30点）

■ **回答例**　AIによるレコメンドやチャット接客の導入で、顧客との接点が増え、双方向的なコミュニケーションが可能になった。

■ **解説**　AIの導入は、従来の“一方的な販売”から“個別対話型の購買体験”へと関係性を変化させた。たとえばオンライン接客では、AIが顧客の過去履歴や購買動機を分析し、リアルタイムで提案を行う。この仕組みにより、顧客は「ブランドに理解されている」という感覚を持ち、ロイヤルティ向上につながっている。さらに、AIによって蓄積されたデータは、次のマーケティング施策や商品開発にも活用され、ブランド体験の循環を生み出している。

演習課題 04 （30点）

AI導入による国内ファッション業界の課題を整理し、今後求められる方向性をまとめてください。

演習課題 04 （30点）

■ **回答例**　課題：データ整備の不十分さ、AI人材の不足、ブランドの独自性低下の懸念。
方向性：共創型AI活用の推進、人材育成、倫理的配慮の徹底。

■ **解説**　国内アパレル業界では、AIの導入が進む一方で、データ品質のバラつきやノウハウ不足が成長の妨げとなっている。今後は単なる効率化ではなく、AIを人の創造性を引き出すためのパートナーとして扱う発想が必要である。また、プライバシーや著作権といった倫理面の整備も急務であり、業界全体でのルール形成が求められている。

令和7年度文部科学省委託
「専門職業人材の最新技能アップデートのための専修学校リカレント教育推進」事業

アパレル業界における生成AIの利活用の知識と技術

演習課題

21ファッション業界の事例紹介（海外）



演習課題 01

（20点）

海外ブランドが生成AIを導入する主な目的について説明してください。

演習課題 01 （20点）

■ **回答例**　生成AIの導入目的は、デザインや顧客体験などの創造的価値を拡張し、ブランドの表現力を高めることにある。効率化やコスト削減も一因ではあるが、最終的には「人間とAIの共創」による新しい価値の創出が中心的な目的となっている。

■ **解説**　海外のブランドは、AIを単なる自動化ツールではなく、ブランド体験を高める戦略的パートナーとして活用している。たとえば、顧客の嗜好分析を通じたパーソナライズ提案や、デザイナーのインスピレーションを補完する生成デザインなどが挙げられる。このような活用は、効率性だけでなくブランドの「物語性」や「世界観」を強化する役割を果たしている。

演習課題 02 （20点）

海外ブランドにおけるAI活用が直面している倫理的・社会的課題について説明してください。

演習課題 02 （20点）

■ **回答例**　主な課題は、学習データの著作権や文化的偏り、環境負荷などが複合的に存在することである。生成AIの透明性や倫理的利用を確保しつつ、ブランドとして社会的責任を果たす姿勢が求められている。

■ **解説**　AIの学習には既存のデザインや画像データが大量に使用されるため、著作権侵害の可能性が常に指摘されている。また、欧米中心のデータセットによる文化的偏りや、生成に伴う電力消費も課題である。各ブランドは「倫理的AIガイドライン」や「サステナブルAI方針」を策定し、透明性を高めようとしている。

演習課題 03 （30点）

ナイキやパタゴニアのAI活用事例を踏まえて、共通する特徴を整理してください。

演習課題 03 （30点）

■ **回答例**　ナイキとパタゴニアはいずれも、AIを用いてブランド哲学を体現する形で顧客体験を最適化している。顧客理解や需要予測の精度向上を図る一方で、環境や理念に沿った持続可能な運用を実現している点に共通性がある。

■ **解説**　ナイキはAIを活用してデータに基づくパーソナライズ提案や需要予測を行い、ブランド体験を進化させている。パタゴニアは理念を損なわない形でAIを導入し、環境配慮や素材管理に反映している。両者に共通するのは、「テクノロジーがブランドの思想を支える」構造を確立していることだ。

演習課題 04 （30点）

海外ブランドのAI活用動向を踏まえて、今後日本のアパレル業界が学ぶべき点を述べてください

演習課題 04 （30点）

■ **回答例**　日本のアパレル業界は、海外ブランドのようにAIをブランド哲学に結びつけ、顧客体験を高める方向に進むべきである。その際には、文化的背景や日本的な美意識を活かした「人とAIの共創モデル」を確立することが求められる。

■ **解説**　海外ブランドが成功しているのは、技術導入を目的化せず「ブランド価値の強化手段」として位置づけているからである。日本でも同様に、AIを導入する際には「日本らしい創造性」や「繊細な顧客理解」といった強みを生かし、独自のストーリーを持つ活用法が重要になる。

令和7年度文部科学省委託
「専門職業人材の最新技能アップデートのための専修学校リカレント教育推進」事業

アパレル業界における生成AIの利活用の知識と技術

演習課題

22生成AI導入による業務効率改善例



演習課題 01

（20点）

生成AIを導入する際、企業文化にどのような影響を与える可能性があるかを説明してください

演習課題 01 （20点）

■ **回答例**　生成AIの導入は、社員の働き方や意思決定のスピード、情報共有の形を変化させる。これにより、効率化だけでなく、挑戦や学びを重視する文化が醸成される可能性がある。

■ **解説**　生成エーアイの導入は「ツール導入」ではなく、「文化変革」の始まりでもあります。
従来の階層的な意思決定や属人的な知識共有が、エーアイによる情報分析と自動化によって可視化され、チーム単位での意思決定が促進されることが多いです。
また、反復的な作業が自動化されることで、社員はより創造的な業務に時間を割けるようになります。これは「効率化」というよりも、「仕事の質の再定義」といえます。
このような変化を企業文化に根づかせるには、上層部の理解と、現場の積極的な参加が不可欠です。特に、エーアイを使うことが「当たり前」となる心理的安全性の高い環境が求められます。

演習課題 02 （20点）

生成AI導入を定着させるために必要な「成功体験の共有」とは何を意味しますか？

また、その効果を説明してください。

演習課題 02 （20点）

■ **回答例**　成功体験の共有とは、小さな業務改善や成果をチームで共有し、エーアイ活用の価値を実感させることを指す。これにより他の社員にも利用意欲が広がる。

■ **解説**　「成功体験の共有」は、生成エーアイ導入を文化として定着させる最も有効な手法の一つです。
たとえば、営業部門でエーアイが見積もり作成を効率化した事例を社内で紹介すると、他部署が「自分たちも試してみよう」と動き出します。
重要なのは、共有の規模ではなく、「成果を可視化し、称賛すること」にあります。
また、成功事例が積み重なると、社内全体の心理的抵抗が減り、「失敗しても大丈夫」という挑戦的な文化が育ちます。これが最終的に全社的なデジタルリテラシー向上にもつながります。

演習課題 03 （30点）

あなたの所属する架空のアパレル企業において、生成AIを使って業務を効率化するアイデアを1つ提案してください。

演習課題 03 （30点）

■ **回答例**　在庫管理の履歴データをエーアイに分析させ、販売トレンドを自動的に可視化するシステムを導入する。
これにより発注量の調整や廃棄ロス削減が可能になる。

■ **解説**　生成AIの活用は、単なる文章作成や画像生成だけではありません。
アパレル企業では、データの活用によって業務を大きく効率化できる領域が多くあります。特に在庫や販売履歴などの定量データは、AIが得意とする分析対象です。
導入の際は「どの業務を・どの目的で・どう変えるか」を明確にすることが成功の鍵です。
また、導入後には、社員がその効果を実感できる仕組み（レポート可視化・ダッシュボード表示など）を整備することも重要です。

演習課題 04 （30点）

生成AI導入を全社に広げるための社内施策を1つ提案してください。

演習課題 04 （30点）

■ **回答例**　「AIチャレンジウィーク」を設け、全社員が業務でエーアイを使って改善事例を発表する取り組みを行う。
優れた事例は全社で共有する。

■ **解説**　生成AIを全社的に定着させるには、「仕組み」と「モチベーション」の両面が必要です。
単なる研修ではなく、全員が参加できるチャレンジイベントのような形にすることで、自主的な学びと横展開が生まれます。
また、優秀な活用事例を可視化することで「自分もやってみよう」という文化が育ちます。
最終的には、各部署が自ら改善テーマを持ち、AI活用を前提に仕事を設計する体制が理想です。

令和7年度文部科学省委託
「専門職業人材の最新技能アップデートのための専修学校リカレント教育推進」事業

アパレル業界における生成AIの利活用の知識と技術

演習課題

23社内共有や教育での導入ステップ



演習課題 01

（20点）

社内におけるAI導入教育の目的を整理し、なぜ単発の研修では不十分なのかを説明してください。

演習課題 01 （20点）

■ **回答例**　AI導入教育の目的は、社員がAIを理解し、日常業務に活かせるスキルを継続的に身につけることにある。単発の研修では学習の定着や実践が難しく、社内文化として根付かない。したがって、定期的な勉強会や成功事例の共有、現場での実践を通して、AI活用を組織全体に浸透させる必要がある。

■ **解説**　AI教育を単発で実施すると、学習内容が実務に結びつかずに終わるケースが多い。教育の本質は「理解」ではなく「定着」であり、継続的な反復学習と実践によってのみ文化として根づく。特にアパレル業界では、日々の業務の中でAIツールを使いこなす習慣化が重要である。これを実現するためには、勉強会やワークショップのような継続教育の仕組みを社内制度として設けることが求められる。

演習課題 02 （20点）

AI推進担当者が社内教育を行う際に直面しやすい課題を3つ挙げ、それぞれに対する具体的な解決策を提案してください。

演習課題 02 （20点）

■ **回答例**　主な課題は①現場の理解不足、②教育の継続体制がない、③成果が見えにくい、の3点である。これらに対して、①基礎研修と成功事例共有で理解促進、②定期的なフォローアップ制度の設計、③導入効果を可視化して経営層と共有、という対策が有効である。

■ **解説**　AI教育の定着を妨げる最大の要因は「現場との温度差」である。推進担当者が一方的に教育を進めても、受講者の関心や実務課題に合わなければ浸透しない。したがって、双方向の意見交換や部門横断の共有会を通じて共通理解を築くことが重要である。また、成果を「定量的（時間削減・効率化率）」と「定性的（社員の満足度・モチベーション）」の両面で可視化することで、上層部の支援を得やすくなる。

演習課題 03 （30点）

アパレル業界の新人社員向けに、生成AIの基礎を社内共有するための社内勉強会のプランを作成してください。（目的、内容、形式、期間を含む）

演習課題 03 （30点）

■ **回答例**　目的：生成AIの基本概念と業務活用の理解促進
内容：AIの仕組み、画像生成のデモ、成功事例紹介
形式：オンライン＋対面ハイブリッド
期間：全3回（各90分、週1回）
特徴：質疑応答とミニワークを交え、社員が自分の業務に活かすヒントを得る構成とする。

■ **解説**　AI教育プログラムを設計する際は、「目的」「対象」「実施方法」をセットで考えることが重要である。特にアパレル業界では、クリエイティブ要素が強いため、視覚的な教材や実演が効果的である。オンラインだけでなく、リアルな交流を組み合わせることで理解が深まりやすい。また、受講後アンケートを行い、教育効果を測定することも不可欠である。

演習課題 04 （30点）

社内でAI活用を推進するための「教育ロードマップ」をChatGPTで生成するプロンプトを設計してください。

演習課題 04 （30点）

■ **回答例**　あなたは企業のAI教育担当者です。
以下の条件に基づき、社内AI教育ロードマップを作成してください。
- 対象：アパレル企業の全社員
- 目的：AI活用の基礎理解と実務定着
- 期間：6か月
- 各フェーズの目的・内容・実施方法を具体的に記述
- 成果指標（KPI）も含めて提案

■ **解説**　ChatGPTの活用では、入力するプロンプトの構成力が成果の質を左右する。明確な条件（対象・目的・期間・出力形式）を指定することで、より実務的で再利用可能なロードマップが得られる。特に教育施策では「誰が」「どの段階で」「何を学ぶか」を明確にすることが重要である。

令和7年度文部科学省委託
「専門職業人材の最新技能アップデートのための専修学校リカレント教育推進」事業

アパレル業界における生成AIの利活用の知識と技術

演習課題

24AIの限界と誤用リスク



演習課題 01

（20点）

AI誤用の代表的なリスクを3つ挙げ、それぞれがどのような影響を及ぼす可能性があるか説明してください。

演習課題 01 （20点）

■ **回答例**
- 情報生成ミス：誤った情報が拡散し、企業や個人の信用を失うリスクがある。
- 著作権侵害：AI生成物が既存作品と酷似し、法的トラブルに発展する恐れがある。
- データ漏洩：機密情報をAIに入力すると、外部に情報が流出する危険がある。

■ **解説**

AI誤用リスクの基本は「誤情報」「権利侵害」「情報漏洩」に大別できる。
情報生成ミスは確認不足によって誤った内容が拡散するリスク、著作権侵害は生成過程で既存作品を模倣してしまう問題、そしてデータ漏洩は入力時点での管理不備に起因する。
これらはいずれも、企業ブランドや信頼を損なう重大な結果につながるため、常に確認とルール整備が求められる。

演習課題 02 （20点）

AI誤用を防ぐための組織的な対策を3つ挙げ、それぞれの目的を説明してください。

演習課題 02 （20点）

■ **回答例**
- ガイドライン整備：利用ルールと責任範囲を明確化し、誤用の線引きを定める。
- 教育体制：誤用事例を共有し、リスク意識を高める。
- 複数人チェック：生成内容の確認体制を設け、誤情報の拡散を防ぐ。

■ **解説**

AIの誤用防止には「ルール・教育・確認」という三本柱が欠かせない。
まずガイドラインで責任を明確にし、教育で理解を浸透させ、チェック体制で実践面の誤りを防ぐ。
特に、組織の規模が大きいほど“全員が同じ基準で運用する”仕組みづくりが重要となる。

演習課題 03 （30点）

「AIが生成した文章をそのまま社外に出してしまった」場合に想定されるリスクと、

対処のためのプロンプト運用ルールを3つ作成してください。

演習課題 03 （30点）

■ **回答例**　＊リスク：誤情報の拡散、ブランド信用の低下、法的責任の発生。

＊対処ルール：

1. 出力内容を複数人で確認する。
2. 参考元データを明示するプロンプトを使用する。
3. 機密・個人情報を含む入力を禁止する。

■ **解説**　このような誤用は、“出力チェックを怠る”ことが最大の要因である。

プロンプト段階で「確認用指示」「出典要求」「安全制約」を設定しておくと、AIの回答精度と透明性を高められる。

また、社外公開前の最終レビュー体制を設けることで、重大なブランド損失を防ぐことが可能になる。

演習課題 04 （30点）

社内でAI活用を推進するための「教育ロードマップ」をChatGPTで生成するプロンプトを設計してください。

演習課題 04 （30点）

■ **回答例**　あなたは企業のAI教育担当者です。
以下の条件に基づき、社内AI教育ロードマップを作成してください。
- 対象：アパレル企業の全社員
- 目的：AI活用の基礎理解と実務定着
- 期間：6か月
- 各フェーズの目的・内容・実施方法を具体的に記述
- 成果指標（KPI）も含めて提案

■ **解説**　ChatGPTの活用では、入力するプロンプトの構成力が成果の質を左右する。明確な条件（対象・目的・期間・出力形式）を指定することで、より実務的で再利用可能なロードマップが得られる。特に教育施策では「誰が」「どの段階で」「何を学ぶか」を明確にすることが重要である。

令和7年度文部科学省委託
「専門職業人材の最新技能アップデートのための専修学校リカレント教育推進」事業

アパレル業界における生成AIの利活用の知識と技術

演習課題

25法的リスクと著作権・倫理的課題



演習課題 01

（20点）

生成AIによる出力物が著作物と認められにくい理由を説明してください。

演習課題 01 （20点）

■ **回答例**　生成AIの出力物は、人間の創作的な意思や個性が直接反映されていないため、著作権法上の「著作物」として認められにくい。

■ **解説**　著作権が成立するためには、「思想または感情を創作的に表現したもの」であることが要件とされる。生成AIの出力物は、学習データや確率的なアルゴリズムに基づいて作られるため、人間の創作的判断が直接的に介在しない。したがって、現行の法制度では著作物として保護されにくい立場にある。
一方で、AI出力を素材として人間が編集や加工を加えた場合、その部分に人間の創作性が認められる可能性がある。したがって、利用者はAI生成物を「参考素材」として扱い、最終的な判断と表現の責任を自ら負うことが求められる。

演習課題 02 （20点）

企業がAI活用においてガイドラインを整備すべき理由を説明してください。

演習課題 02 （20点）

■ **回答例**　AIの利用範囲や禁止事項、責任の所在を明確にし、法的・倫理的なトラブルを未然に防ぐため。

■ **解説**　AI活用が広がるにつれ、生成物の著作権侵害や誤情報の拡散など、多様なリスクが生じている。ガイドラインは、社員がどのようにAIを利用すべきかを明確に示し、法的・倫理的な判断の基準を共有するために不可欠である。

また、透明性や説明責任を重視する姿勢は、企業の信頼性向上にもつながる。特に、生成AIを活用したコンテンツ制作では、出力経緯を記録し、利用範囲を適切に管理することが求められる。

演習課題 03 （30点）

自社で生成AIを利用して広告画像を作成する場合、

法的・倫理的に注意すべき点を3つ挙げてください。

演習課題 03 （30点）

■ **回答例**　1. 学習データに他者の著作物や肖像が含まれていないかを確認する。
2. 出力内容が差別的・攻撃的な表現を含まないかを確認する。
3. 生成過程や使用AIモデルを社内で記録・共有する。

■ **解説**　広告画像の生成では、学習データの権利侵害・表現の不適切性・透明性欠如といった問題が起こりやすい。特に、人物を含む生成画像は、肖像権やパブリシティ権の侵害につながる恐れがある。
また、AIが作成した画像を実際の人物や企業と誤認させるような使い方は、消費者保護法や景品表示法にも抵触する可能性がある。出力のプロセスと利用範囲を明示することで、リスクを最小化できる。

演習課題 04 （30点）

自社のAI活用における「倫理的配慮」を社内に定着させるための取り組み案を提案してください。

演習課題 04 （30点）

■ **回答例**　定期的なAI倫理研修と、チェックリストを活用した運用体制を整備する。

■ **解説**　倫理的配慮を定着させるには、単発の啓発ではなく、継続的な教育と仕組み化が必要である。具体的には、AI利用前後に確認するチェックリストを導入し、判断基準を統一することが有効である。

さらに、倫理的な判断を行った事例を社内で共有し、責任ある活用を称賛する文化を醸成することも重要である。倫理を「守るべきルール」ではなく「価値創造の基盤」として位置づけることで、持続的なAI活用が実現できる。

令和7年度文部科学省委託
「専門職業人材の最新技能アップデートのための専修学校リカレント教育推進」事業

アパレル業界における生成AIの利活用の知識と技術

演習課題

26ChatGPTのリスクと安全な使い方



演習課題 01 （20点）

ChatGPTの「誤情報リスク」と「著作権リスク」はどのように異なるかを整理し、具体例を挙げて説明してください。

演習課題 01 （20点）

■ **回答例**　誤情報リスク：出力内容が事実と異なる情報を含むこと。例：ブランドの創業年を誤って出力する。
著作権リスク：他者の著作物を無断で模倣・引用すること。例：他社のキャッチコピーをそのまま生成する。

■ **解説**　誤情報リスクは、AIが不正確な情報を出力することによって信頼性を損なう問題であり、事実確認で防げる。
一方で著作権リスクは、生成されたコンテンツが既存作品と類似することによって法的責任を問われる可能性がある。
両者は原因も対策も異なるため、同列に扱うべきではない。
業務で使用する際は、出力内容の正確性と法的適正性の両面を確認する仕組みが必要である。

演習課題 02 （20点）

自社でChatGPTを活用する際に、社員が誤って個人情報を入力しないようにするための「運用ルール」を3つ考えてください。

演習課題 02 （20点）

■ **回答例**　1. 入力前に「個人情報チェックリスト」を設ける
2. ChatGPT利用前に社内承認を必須とする
3. 生成文書は必ず管理者がレビューしてから共有する

■ **解説**　安全なAI活用には、ルールとフローの設計が欠かせない。
特に情報入力段階でのガイドラインやチェックリストを明確にし、社員の判断を標準化することが有効である。
承認フローやレビュー体制を組み込むことで、ヒューマンエラーを最小化できる。
これらの対策は技術的な防御よりも、教育と組織的仕組みによって実現される。

演習課題 03 （30点）

ChatGPTの業務利用において、最も注意すべき「情報漏えいリスク」について、発生要因を3つ挙げて説明してください。

演習課題 03 （30点）

■ **回答例**　1. 機密情報を直接入力してしまうヒューマンエラー
2. 生成結果に他社や第三者のデータが混在して出力されるケース
3. 社内共有時に意図せず外部に転送される管理上のミス

■ **解説**　情報漏えいは、ユーザー側の入力ミスや確認不足によって発生することが多い。
ChatGPTは入力データを一部学習に利用する場合があるため、社外秘情報の入力は絶対に避けるべきである。
また、生成結果にも他者の著作物や固有名詞が含まれる可能性があり、出力後の確認も重要である。
さらに、社内共有の際にはアクセス権限の設定不備によって漏えいが拡大することもあり、運用上の管理体制も含めた対策が求められる。

演習課題 04 （30点）

ChatGPTを安全に利用するための「プロンプトテンプレート」を作成してください。

（例：入力内容を安全に限定し、出力も法的に問題がない範囲に収める構文）

演習課題 04 （30点）

■ **回答例**　「あなたは社内資料の作成をサポートするアシスタントです。
個人情報・社外秘・著作物の引用を含まない形で、説明文を提案してください。」

■ **解説**　安全なプロンプトとは、AIに「何をしないか」を明確に指示する設計である。
入力段階で禁止条件を指定することで、出力リスクを事前に抑制できる。
このような明示的制約をテンプレート化しておくことで、社員全体の安全意識が高まり、業務効率と安心感の両立が可能となる。

令和7年度文部科学省委託
「専門職業人材の最新技能アップデートのための専修学校リカレント教育推進」事業

アパレル業界における生成AIの利活用の知識と技術

演習課題

27画像生成AIにおける注意点



演習課題 01

（20点）

画像生成AIの著作権リスクについて、どのような点に注意すべきか説明してください。

演習課題 01 （20点）

■ **回答例**　AIが生成する画像には、学習段階で既存作品の要素が含まれている可能性がある。そのため、有名アーティストやブランドの作風を模倣した画像を使うと、著作権や商標権を侵害するリスクがある。商用利用する場合は、利用規約を確認し、生成過程や出典を記録しておくことが必要である。

■ **解説**　画像生成AIは大量のデータを学習しており、出力結果に既存作品の特徴が反映されることがあります。そのため「AIが作った＝自由に使える」わけではありません。特に商用利用の際は、著作権・商標権・肖像権のいずれも意識する必要があります。利用規約を読み、再利用や商用化の可否を確認することが安全な運用の第一歩です。

演習課題 02 （20点）

画像生成AIを社内で安全に活用するためのガイドラインに盛り込むべき項目を3つ挙げ、それぞれの目的を説明してください。

演習課題 02 （20点）

■ **回答例**　1. 入力情報の制限：顧客情報や社外秘データを入力しない。
2. 利用範囲の明確化：商用・社内利用を明確に区別する。
3. 公開前の確認体制：法務・広報が生成物をチェックする。

■ **解説**　ガイドラインは「使わないため」ではなく、「安全に使うため」にあります。入力データの制御、利用範囲の区別、確認プロセスの三段構えでリスクを減らすことができます。特に商用画像の公開前に専門部署がチェックする仕組みは、企業の信頼維持に直結します。

演習課題 03 （30点）

「春の新作コレクションの雰囲気を表す画像」を生成するプロンプトを作成してください。

ただし、著作権・倫理に配慮した内容にしてください。

演習課題 03 （30点）

■ **回答例**　春の柔らかな光の中で、淡いパステルカラーの服を着たモデルが屋外で歩いているイメージ。自然な風と花の香りを感じる穏やかな雰囲気のファッション撮影シーン。

■ **解説**　日本語プロンプトでも、感覚的で抽象的な表現を使えば十分に効果的です。具体的なブランドや人物を避け、色・光・空気感といった「非特定的」要素で構成することで、著作権侵害を防ぎつつ魅力的な画像を生成できます。

演習課題 04 （30点）

AIで生成した画像を安全に社外公開するための手順を、3段階で整理して説明してください。

演習課題 04 （30点）

■ **回答例**　1. 生成記録を保存（使用ツール名・プロンプト・日時を明記）
2. 内容確認（法務・広報が著作権・表現面をチェック）
3. 公開後のモニタリング（SNS反応や外部指摘を監視）

■ **解説**　生成から公開までの経緯を可視化することで、万が一のトラブル時に責任の所在を明確にできます。特に企業が発信するビジュアルは社会的影響が大きく、倫理的な観点からも慎重な手順が求められます。

令和7年度文部科学省委託
「専門職業人材の最新技能アップデートのための専修学校リカレント教育推進」事業

アパレル業界における生成AIの利活用の知識と技術

演習課題

28今後の技術トレンドとファッション活用



演習課題 01

（20点）

AI技術の進化がアパレル業界のデザイン工程にどのような影響を与えているのか、具体的な例を挙げて説明してください。

演習課題 01 （20点）

■ **回答例**　AIは、デザイン業務の発想段階から制作・修正まで幅広く活用されている。たとえば、過去のコレクションデータやトレンド情報を分析し、次のシーズンの配色や形状を提案することで、デザイナーの発想を補助している。また、画像生成AIを用いれば、短時間で複数のデザイン案を可視化できるため、制作工程の効率が大幅に向上している。これにより、デザイナーは「創り出す人」から「選び、編集する人」へと役割を変化させている。

■ **解説**　AIは、膨大なデータをもとにデザインパターンやトレンド傾向を抽出するため、発想の幅を広げる効果がある。これは「効率化」よりもむしろ「創造性の拡張」として捉えるべきであり、デザイナーはAIを活用してより高度な構想や世界観の表現に集中できる。AI導入によって人間の役割が縮小するのではなく、創造の本質が“人間の判断”へと集約される点が重要である。

演習課題 02 （20点）

AIによるサプライチェーン最適化がもたらすメリットと、企業が直面する可能性のある課題を説明してください。

演習課題 02 （20点）

■ **回答例**　AIによるサプライチェーン最適化は、需要予測や在庫管理の精度を高め、廃棄削減とコスト抑制を実現する。一方で、データ依存が進むことで、誤ったアルゴリズム設定や外部環境の急変によるリスクが発生する可能性もある。また、AIの導入には初期コストや社員教育の負担も伴う。したがって、AIの自動化に過度に依存せず、人的監視と柔軟な判断を組み合わせることが重要である。

■ **解説**　サプライチェーンの最適化におけるAIの利点は、予測精度と可視化にある。気候変動やSNSトレンドなどの変数を加味することで、需要変動をより正確に把握できるようになる。しかし、AIモデルは過去データに依存するため、前例のない事象への対応は苦手である。最終判断を人間が行う体制を維持することが、リスクマネジメントの観点から重要である。

演習課題 03 （30点）

AIを活用して、顧客一人ひとりに最適な商品提案を行うプロンプトを作成してください。

演習課題 03 （30点）

■ **回答例**　プロンプト：
「30代女性でナチュラル系のファッションを好む顧客に向けて、今季のトレンドカラーを取り入れたおすすめコーディネートを3パターン提案してください。価格帯は1万円前後で、通勤にも使えるスタイルを優先してください。」

■ **解説**　このプロンプトでは、ターゲット層・好み・目的・価格帯といった条件を具体的に設定している点がポイントである。AIにとって指示が明確であるほど、出力結果の精度は高まる。ファッション領域では「スタイル」や「使用シーン」などの情報が特に重要であり、抽象的な指示は避けることが望ましい。

演習課題 04 （30点）

AIと人間が協働する未来のファッション業界を想定し、どのような職種・スキルが新たに求められるかを考え、あなたの意見を述べてください。

演習課題 04 （30点）

■ **回答例**　AIの導入により、ファッション業界では「AIプロンプトデザイナー」や「データストーリーテラー」など、人間の感性とデータ分析をつなぐ新しい職種が登場すると考えられる。今後は、テクノロジーを理解しつつ、ブランドの世界観を言語化・編集できるスキルが重要になる。AIに任せる部分と人間が担う部分を見極める判断力こそ、次世代のファッション人材に求められる要素である。

■ **解説**　AIが進化しても、「人間の物語を紡ぐ力」は代替できない。今後は、デザイン・マーケティング・データ分析を横断的に理解する“ハイブリッド型人材”が重視される。特に、AIの出力をどう読み取り、ブランドの価値へと変換できるかがカギとなる。人間の感性とAIの知性が共存する時代には、両者を調和させるリーダーシップが必要である。

令和7年度文部科学省委託
「専門職業人材の最新技能アップデートのための専修学校リカレント教育推進」事業

アパレル業界における生成AIの利活用の知識と技術

演習課題

29成功のための導入ステップ整理



演習課題 01

（20点）

AI導入を進める際の「目的設定」について、企業が最初に行うべきステップを説明してください

演習課題 01 （20点）

■ **回答例**　AI導入の目的設定では、まず企業のビジョンに合致するゴールを明確化し、解決すべき具体的な業務課題を特定する。さらに、成果を可視化できるKPIを設定し、関係者全体で方向性を共有する。

■ **解説**　目的設定はAI導入の土台であり、曖昧なままでは全工程が迷走する。アパレル業界では、導入目的を「デザイン支援」「顧客体験強化」「在庫最適化」などに明確化することが多い。目的が明確であれば、技術選定や運用方針も一貫し、社員も目的意識を共有しやすくなる。

演習課題 02 （20点）

AI導入における「社内教育」と「リテラシー向上」の重要性について説明してください。

演習課題 02 （20点）

■ **回答例**　AI導入ではツール操作教育だけでなく、AIの仕組みや限界を理解させるリテラシー教育が必要である。社員が自ら考え、AIを活用して価値を生み出す文化を育てることが導入定着の鍵となる。

■ **解説**　AIリテラシー教育は、単に操作スキルの習得ではなく、判断力と批判的思考を養うことを目的とする。特にアパレル業界では、AIが提案するデザインやトレンド分析を鵜呑みにせず、人間の感性との調和を図る教育が求められる。

演習課題 03 （30点）

AIを活用して「社内研修内容の改善点」を洗い出すプロンプトを作成してください。

演習課題 03 （30点）

■ **回答例**　プロンプト例：
「以下の情報をもとに、社内研修の改善点を分析し、3つの具体的提案を出してください。
・対象：アパレル販売スタッフ
・目的：AI活用リテラシーの向上
・現状の課題：受講者の理解度にばらつきがある」

■ **解説**　有効なプロンプトは、背景情報・目的・出力条件の3要素を明確に伝える。AIは条件を正確に理解することで、改善提案をより実践的に生成できる。

演習課題 04 （30点）

AIを活用して「自社のAI導入ロードマップ案」を作成するためのプロンプトを考えてください。

演習課題 04 （30点）

■ **回答例**　プロンプト例：
「自社のAI導入ロードマップを作成してください。以下の条件を考慮してください。
・業種：アパレル小売
・目的：業務効率化と顧客データ活用の両立
・期間：1年間
・ステップ：調査→試験導入→評価→本格展開」

■ **解説**　AIにロードマップ作成を依頼する際は、「期間」「目的」「フェーズ構成」を具体的に示すことが不可欠。これにより、AIが戦略的で現実的なプランを構築できる。

令和7年度文部科学省委託
「専門職業人材の最新技能アップデートのための専修学校リカレント教育推進」事業

アパレル業界における生成AIの利活用の知識と技術

演習課題

30生成AIが変えるファッション広告表現



演習課題 01

（20点）

生成AIがファッション広告に与える主な影響を整理し、従来の広告制作との違いを説明してください。

演習課題 01 （20点）

■ **回答例**　生成AIの導入によって、広告制作はスピードと表現の多様性が大きく向上した。従来は撮影や編集に時間がかかっていたが、生成AIを使うことで短時間で多様なビジュアルを生成できる。また、データを活用したパーソナライズ広告も容易になり、消費者ごとに最適化された表現が実現している。

■ **解説**　生成AIは、単なる効率化ツールではなく「広告の概念」を拡張する技術である。従来の広告制作が「人間の手作業による創造」を中心としていたのに対し、生成AIは膨大なデータからパターンを学習し、新しい表現を自動生成する。その結果、少人数でも大量の広告案を短期間で試作でき、ターゲット別に最適なメッセージを発信できるようになった。また、AIが生成した素材を人間が再構成することで、ブランド世界観を保ちながら革新性を両立させることが可能になる。

演習課題 02 （20点）

AI広告表現の拡大に伴って生じる倫理的課題を挙げ、それに対して企業が取るべき対応を説明してください。

演習課題 02 （20点）

■ **回答例**　AI広告表現の倫理的課題には、著作権や肖像権の侵害、データ偏りによる差別的表現、誤情報の拡散などがある。これに対して企業は、生成物の出典を明示し、AI生成であることを開示するほか、倫理ガイドラインを策定して社内教育を行うことが重要である。

■ **解説**　AIによる生成コンテンツは、学習データに基づいて自動的に出力されるため、意図せず他者の権利を侵害したり、偏見的な内容を含む可能性がある。特にファッション分野では、「人種」「体型」「性別」に関する表現が社会的に敏感な領域であるため、倫理監修が欠かせない。企業は透明性の確保を重視し、AI生成物であることの明示やデータ利用の適正管理を行うことで、ブランド信頼を維持できる。

演習課題 03 （30点）

生成AIを活用して、ブランドキャンペーンの広告ビジュアルを作るプロンプトを作成してください。

演習課題 03 （30点）

■ **回答例**　プロンプト例:
「上品で洗練された女性向けファッションブランド“Éclat”の春キャンペーン。柔らかな自然光の中で、白いワンピースを着たモデルが花々に囲まれている。透明感と希望を感じさせるトーンで撮影したビジュアル。」

■ **解説**　生成AIプロンプトでは、「誰に」「どんな印象を」「どのような構図で」伝えるかを明確にすることが重要。抽象的な言葉ではなく、ブランドのメッセージや季節感、情緒を具体的に表現することで、AIが生成するビジュアルの一貫性が高まる。また、ブランドカラーやテクスチャ、素材感などを加えると、より精度の高い出力が得られる。

演習課題 04 （30点）

AI生成による広告を継続的に改善するための運用フローを提案してください。

演習課題 04 （30点）

■ **回答例**　AI生成広告は、「生成→配信→効果測定→再生成」のサイクルを継続的に回す。配信後のデータをAIで分析し、反応の高かった要素を抽出。次の生成時にそれを反映させることで、広告精度を高める運用体制を構築する。

■ **解説**　AI広告の運用において最も重要なのは「高速PDCAサイクル」である。AIが生成したビジュアルやコピーを配信し、クリック率・滞在時間・感情分析などのデータを収集。そこから得た知見をAIモデルに再学習させることで、よりターゲットに響く広告を自動的に改善していく。この継続的改善こそが、人間とAIの協働を実現する鍵となる。

令和７年度「専門職業人材の最新技能アップデートのための専修学校リカレント教育（リ・スキリング）推進事業」
アパレル産業における社会変化に対応した技能アップデートプログラムの開発と実証事業

生成AIの利活用の知識と技術教育演習課題

令和８年２月

学校法人第一平田学園　中国デザイン専門学校
〒700-0842　岡山県岡山市北区船頭町１２
電話：086-225-0791

●本書の内容を無断で転記、掲載することは禁じます。